

固ニシ其發見スル所ノ公ノ秩序ヲ亂ス一切ノ違警罪ニ付キ調書ヲ作ルヲ得又備警兵ハ特ニ酒店割烹店其他衆人ノ集ル場所ヲ監察スルノ職ヲ有ス而テ其調書ハ治罪法第百五十四條ニ從ヒ裁判上反證アル迄真正ト看做ス可キ効力アル調書ノ部類ニ入ル可キ者ナリ大審院判決事例ニ於テ備警兵ニ社會ノ秩序ヲ亂ス一切ノ違警罪ヲ檢證スルノ權アルヲ確認スルニ毫モ踟躕セザリシハ至當ナリト爲ス紀元一千八百五十四年三月一日敕書第四百八十八條ニ於テ明ニ此意旨ヲ詳明セリ本條ニ曰ク備警兵ハ重罪及ヒ其發見スル所ノ一切ノ重罪輕罪違警罪ニ付キ調書ヲ作ル可シ又其第四百九十八條ニ於テハ別ニ區別ヲ設クル所ナク總テ此等ノ調書反證アル迄真正ト看做ス可キ効力ヲ有スル者ナリト爲ヒリ然ルニポーセーノ違警罪裁判所ニ於テハ備警兵ノ作リタル調書ニ續造ノ訴アル迄證據ノ力

ヲ有スル者ナリトシタルハ現ニ治罪法第百五十四條ニ背キタル者ト謂フ可シ

以上ノ情狀ニ由リ云々

判決

大審院ニ於テ紀元一千八百七十五年七月十九日附國壓監守司法卿ノ書翰及ヒ同月三十一日附大審院檢事長ノ請求書及ヒ治罪法第四百四十一條ニ據リ判決ヲ下ス左ノ如シ

エキヤンヌアルノ一ハ紀元一千八百七十五年四月四日ノ夜公道ニ點燈ナク三個ノ車ヲ停メ置キタル罪アリトシポーセーノ違警罪裁判所ニ呼出サレタリ而テ其所爲ハ備警兵二人ノ作リタル調書ヲ以之テ證明シ今司法卿ヨリ告發ニ係ル裁判言渡ニ於テ此調書ハ續造ノ訴アル迄真正ト看做ス可キ効力アル者ナレハ被告人ニ於テ其反對ノ證據ヲ



以之ヲ辨駁スルノ權ナシト判定セリ  
 凡法律上備警兵ノ調書ニ贗造ノ訴アル迄證據ノ力アリトシタル規則  
 ハ一モ之アルヲ見ス加之此事ニ關スル一切ノ法律就中紀元一千八百  
 五十四年三月一日敕書第四百九十八條ニ據レハ備警兵ノ調書ハ裁判  
 上反對ノ證アルニ至テハ證據ノ効チ有セサル者ト爲ス是ニ由テ之ヲ  
 觀ルニホーセー違警罪裁判所ニ於テ爲シタル裁判言渡ノ如キハ現ニ  
 治罪法第五百四十四條ニ背キタル者ト爲ス仍テ之ヲ破毀スル者ナリ

紀元一千八百七十五年八月二十日

刑事局

裁判長

カルニエール

專任判事

ビエロー

大代言人

デジャルダン

第二十四則

風俗取締規則ニ關スル邑ノ布達ニ於テ邑長自ラ賣淫ヲ爲ス女子ノ  
 名ヲ登記ス可キ旨ヲ命セテ却テ警部ニ其取締ノ執行ヲ監察シ及ヒ  
 之ヲ確的ニス可キ旨ヲ命シタルヲ以テ警部ニ於テ賣淫姓名簿ニ該女  
 子ノ名ヲ登記シタルハ其効アリト爲ス 紀元一千七百九十年八月十  
 六日ヨリ二十四日ニ至ル法  
 律第十一卷第三條及ヒ紀元一千七百九十一年  
 九月二十一日ヨリ二十九日ニ至ル法律第二條  
 如斯登記シタルモ該女ニ於テハ數度故障ナク邑ノ布達ヲ遵奉シ又  
 邑長ニ於テハ其登記シタル所ノ女ヲ蠱毒ノ爲メ町内ノ病院ニ送ル  
 可キ旨ヲ命シ且警部ニ於テ爲シタル所ノ登記ヲ確認シタルトキハ  
 復其登記ニ付キ故障ヲ爲スヲ得ス  
 此ノ如キ情況ニ於テ登記セラレタル者ハ縱令姓名簿中ヨリ其姓名



ヲ塗抹シタル旨ヲ言渡サル、モ警部ニ於テ其塗抹言渡ノ送達ヲ受クル以前ニ檢證シタル違警罪ニ付キ其責ヲ免ル、ヲ得ス  
 輕罪裁判官ニ於テ其登記セラレタル女眞ニ正業ニ復シタルニ非サル旨ヲ言渡サンカ爲メ違警罪裁判官ノ面前ニ於テ爲シタル證人ノ陳述當公判席ニ於テ爲シタル辨論及ヒ警部ノ作リタル調書ニ據リタルハ法律ニ從ヒ充分ニ其判決ノ理由ヲ付シタル者ニシテ紀元一千八百十年四月二十日法律第七條治罪法第百五十三條及ヒ第百五十四條ニ背キタル者ニ非ス

控訴人 女子某

紀元一千八百七十三年十二月二十四日ノール輕罪裁判所ノ裁判言渡ヲ載録スル左ノ如シ  
 シヲアロン市ノ風俗取締規則ハ紀元一千八百七十一年八月四日附

ヲ以邑長ポリドルゲラン之ヲ布達シ同月四日イゼールノ州長之ヲ認可シタリ其規則第一條ニ曰ク邑廳ニ賣淫姓名簿ヲ設置キ賣淫ヲ業トスル女子ノ姓名ハ總テ之ニ登記ス可シト又其第四條ニ曰ク此處分法ハ官ノ職權ヲ以之ヲ爲シ又ハ賣淫女ノ求ニ由リ之ヲ爲ス可シト云々

邑長ハ訴ノ起ル迄總テ此布達ノ適用ヲ警部ニ委託シ且ツ之ニ牒簿ヲ渡置キタリ而テ此布達ノ規則ニ基キ女子某ノ姓名ハ其風俗ノ正シカラサルヲ檢證シタル後紀元一千八百七十一年八月第十九號ヲ以之ヲ賣淫姓名簿ニ登記シタリキト云々

控訴人ニ於テ紀元一千八百七十六年八月十三日附テ以七月二十八日衛生檢査ニ立會フ可キ旨ヲ肯ヒサルニ由リ罰金五フランヲ言渡サレタルアロン違警罪裁判所裁判言渡ノ取消ヲ求ムル理由ハ



第一其姓名ノ登記ハ豫メ邑長ノ特別ナル布達ナクシテ之ヲ爲シ且  
 警部ニ於テ之ヲ爲シタルハ擅横ノ處分ナルヲ以不規則ノ者ナル旨  
 ナ主張シ其第二ニ於テ縱令其登記ヲ有効ト判決スルモ控訴人ハ既  
 ニ正業ニ復シタルハ此布達ヲ遵奉スルノ義務ナシト主張セリ  
 其第一ノ理由ニ付キ判決ヲ下スニ抑此困難ナル事件ニ付キ特別ナ  
 ル布達ヲ以取締ヲ爲スハ最モ賢明ナル處分ニシテ最モ高尙ナル秩  
 序ニ關スル者人身自由ニ關スルカ故ニ云爾ナリ故ニ一般ノ布達ヲ以此保證ヲ定  
 メサリシハ甚タ嘆ス可キ次第ナリ加之此保證ハ邑長ニ於テ風俗取  
 締事務ヲ拋棄シタルニ由リ實際行ハレサリシ者ト謂フ可シ然レト  
 モ女子某ニ對シテハ懲毒ノ爲メ紀元一千八百七十一年九月八日其  
 登記ノ後グルノトグルノ病院ニ送ラレタルヲ以此保證ニ匹敵ス可  
 キ處分ヲ行ヒタル者ナリ布達第二條ヲ執行スル爲メ邑長ノ請求ト

注意トニ由リ且特別ノ仁惠ヲ以七月三日迄ウチアロン市ノ費用ヲ  
 仰キ女子某ノ受ケタル待遇ニ就テ之ヲ見ルニ邑長ニ於テ女子某ノ  
 登記ヲ認メタルハ明白ナリ加之女子某ニ於テモ亦自ラ其位置ノ至  
 當ナルヲ認メタリシ者トセサルヲ得ヌ如何トナレハ女子某ハ此布  
 達ニ背キタルノ故ヲ以數回刑ノ言渡ヲ受ケ就中紀元一千八百七十  
 一年十一月八日及ヒ十二月六日ニ言渡サレタル禁錮ノ刑ヲ受ケタ  
 ルモ敢テ故障ヲ爲サス甘テ其執行ヲ受ケタレハナリ又女子某ハ邑  
 長ゲイランノ企テタル風俗取締規則執行ノ停止ヲ以其利益ト爲ス  
 ナ得ヌ其企ノ理由タル當裁判所ニ於テ關知ルニ及ハサル者ナリ此  
 企ハ去七月二十七日ニ之ヲ爲シ州長ニ於テ之ヲ認可セサルノミナ  
 ラス終ニ邑長ノ職ヲ免セラルノ原因トナリシ者ナリ又女子某ハ  
 邑長ノ嘗テ警部ニ爲シタル委任ヲ解除シタルヲ以故障ノ理由ト爲



ステ得ス如何トナレハ警部ニ於テハ此通知ヲ受ケタルハ同月二十九日即公訴ヲ提起シタル調書日附ノ翌日ニシテ且女子某ノ姓名塗抹ハ規則ニ從ヒタル者ニ非サレハナリ

又其第二ノ理由ニ付キ判決ヲ下ス左ノ如シ初審廳ニ於テ女子某ノ請求ニ由リ其正業ニ復シタル旨ヲ證センカ爲メ呼出シタル證人四名ノ供述ハ心證ノ元素ヲ現ハス者ニ非スゲイランナル第一證人ノ申立ハ生糸製造人ナル第二證人フアヴィエーノ申立ヲ復述シタルニ過キサルノミ其生糸製造人ノ證書ニ依レハ女子某ハ怠リナク午前五時ヨリ午後八時ニ至ル迄其工場ニ在リタルニ相違ナシト提供セリ然レトモ控訴人ニ於テハ紀元一千八百七十一年前文續述シタル蠱毒ノ爲メ將サニ身ヲ危フセントスルニ至リタルトキ既ニ數年前ヨリ一ノ工場ニ雇ハレ居タル者ヲ自認セリ是ニ由テ之ヲ觀ルニ

女子某ハ其職業ノ餘閒ニ容易ク猥褻ノ所行ヲ爲シタルハ最モ明白ナリト爲ス

又六週間以來女子某ノ家主ナル第三證人ノ陳述及ヒ女子某去六月二十四日即チグルノーブルノ病院ヲ出ル前一年間隣人タリシ第四證人ノ陳述モ亦採用ス可キノ理由ナシ如何トナレハ此第三第四ノ證人ニ於テハ女子某ノ品行ニ付キ別段怪ム可キ事柄ヲ注目セサル旨ヲ陳述スルモ之カ爲メ女子某其慣行ヲ改メタルノ證ト爲ステ得サレハナリ凡賣淫ハ必スシモ其住所ニ於テ之ヲ爲ス者ニ非ス種々ノ場所ニ出沒シテ之ヲ爲スハ疑ヲ容ル可カラサル者ナリ世ニ賢明德實ノ譽アルジチアロンノ治安裁判官ニ於テ證明シタル所ニ據レハ女子某ハ前文掲ケタル刑ノ言渡ヲ受ケタル後公衆ノ場所ニ於テ輕嫖ノ男子及ヒ賣淫女ト共ニ猥褻ニ從事シタルハ毫モ疑ヲ容レズ



故ニ女子某ハ其行ヲ改メタル者ニ非ス仍ホ其登記ノ時ト同シク賣淫ヲ爲ス者ト判定ス

以上ノ理由ニ由リ去七月二十八日衛生検査ニ女子某ノ臨席セサルヲ以犯則ノ調書ヲ作リタルハ至當ノ處置ナレハ從テ初審裁判所ノ女子某ニ對スル刑ノ言渡ハ至當ナリト爲ス仍テ初審裁判所ノ言渡ヲ認可スル者ナリ

右ノ判決ニ付キ女子某ハ上告ヲ爲シタリ

上告人 女子某

判決

上告人ニ於テ其姓名ヲゾチアロン邑ノ賣淫姓名簿ニ邑長自ラ登記セシメテ其邑ノ警部之ヲ爲シタルハ同邑ノ賣淫ニ關スル紀元一千八百七十一年八月八日邑布達第一條ニ背キタリト謂フニ基ク上告第一ノ

理由ニ付キ大審院ニ於テ判決ヲ下ス左ノ如シ

該布達第一條ニ據レハ邑廳ニ姓名簿ヲ設置キ賣淫ニ從事スル總テノ婦女ノ姓名ヲ登記ス可シトアリ而テ邑長自ラ其姓名簿ヲ所持シ同ク其婦女ノ姓名ヲ登記ス可キヲ命セサリキ加之該布達第十五條ニ據レハ警部ハ其執行ヲ監察シ及ヒ確的ニスル任アリ既ニ警部ニ此職アルヲ以紀元一千八百七十一年八月警部取調ノ後上告人ヲ第十九號ニ登記シタルハ其權内ナリト爲ス又女子某ハ該布達ヲ違奉シ敢テ故障ヲ申立タル者ナク犯則ノ廉ヲ以兩度訴ヲ受ケ而テ兩度共該刑ヲ言渡サレ且其執行ヲ受ケタリ加之邑長ニ於テモ女子某ヲ以賣淫女ト爲シ懲毒ノ爲メゾチアロン市ノ費用ヲ以之ヲグルノ一ブルノ病院ニ移ス可キヲ命シ從テ同女ノ位置ヲ確認セリ故ニ上告第一ノ理由ハ採用ス可キ者ニ非ス



女子某ハ衛生検査ヲ受ク可キ手續ヲ定メタル第十三條ニ背キタルニ由リ七月二十八日ニ作ラレタル調書ハ既ニ自己ノ賣淫姓名簿中ヨリ塗抹セラレタル後ニ在ルヲ以該布達第三條ニ背キタル者トシタル上告第二ノ理由ニ付キ判決ヲ下ス左ノ如シ

邑長ニ於テハ同月二十七日附テ以女子某ノ氏名ヲ塗抹シタル旨ヲ言渡シタリト雖其言渡ヲ警部ニ通知シタルハ二十九日ナリ乃チ其塗抹ハ是ヨリ以前ノ所爲ニ溯ルノ効力ナキヲ以警部ノ證明シタル違警罪ヲ消滅スルノ効驗ナシ故ニ上告第二ノ理由ハ事實ニ於テ欠ケタル所ノ者ト爲ス

上告人ハ嘗テ賣淫姓名簿ニ登記セラレタル理由ノ既ニ消滅シタルヲ以該布達違奉スルニ及ハサル旨ヲ證明スルヲ目的トシテ爲シタル陳述ニ付テノ裁判言渡ハ其理由ニ瑕瑾アリト謂フテ原因トシタル上告

第三ノ理由ニ付キ判決ヲ下ス左ノ如シ

上告ニ係ル裁判言渡ハ女子某ノ眞ニ其行ヲ改メサル事及ヒ其登記ノ時ト同シク仍ホ賣淫女タル事ヲ言渡サシカ爲メ治安裁判官ノ面前ニテ爲シタル證人ノ陳述及ヒ控訴ニ付キ判決ヲ爲ス可キ輕罪裁判所ニ於テ爲シタル辨論ト七月二十八日警部ノ調書トニ據リタル者ナレハ該判決ハ法律ニ從ヒ充分裁判ノ理由ヲ附シタル者ニシテ紀元一千八百十年四月二十日法律第七條治罪法第百五十三條及ヒ第百五十四條ニ背キタル者ニ非ス仍テ上告ヲ却下ス

紀元一千八百七十四年十一月廿一日 刑事局

裁判長 カルニエール

專任判事 ザンシヤゴミー

大代言人 ベダリード



第二十五則

豫審免訴言渡ニ對シ檢察官ヨリ爲シタル故障ニ付キ重罪取調局ニ於テ被告人ヲ輕罪裁判所ニ送致ス可キ旨ヲ言渡タル場合ニ於テ其言渡ハ豫審判事ノ言渡ニ代ハル者ナレハ被告事件ノ罪名ニ誤アルヲ理由ト爲シ上告ヲ爲スヲ得ス  
治罪法第百三十五條第四百八條及ヒ第四百十三條

上告人 ベンタ、イ

判決

大審院ニ於テ上告人モ井ズベンタ、イヨリ紀元一千八百七十四年十二月二十三日アルゼールノ控訴裁判所重罪取調局ノ言渡ニ對シ爲シタル上告ハ受理ス可カラサルトノ原因ニ付キ判決ヲ下ス左ノ如シ但

其重罪取調局ノ言渡ハ紀元一千八百七十三年ノ終ニ際シベンタ、イハトランサンノ分散商人ガスパールアラモーンノ債主ナルヲ以其分散人ガスパールアラモーンノ妻アツサンシヨンサンセイト分散宥恕議決ノ時分散人ニ利益アル投票ヲ爲セハ我ニ特別ノ利益ヲ與フ可キ約束ヲ爲シタルノ罪即チ商法第五百九十七條ニ定メタル輕罪ヲ犯シタル證アリトシトランサン輕罪裁判所ニ送致シタル者ト爲ス  
凡輕罪裁判所ニ被告人ヲ送附スル所ノ豫審判事ノ言渡ニ對シテハ被告人ヨリ上訴ヲ爲スヲ許サ、ル者ナリ又治罪法第百三十五條ニ據レハ被告人ハ同法第百十四條ニ依リ言渡シタル所ノ輕罪裁判所ニ送付ス可キノ言渡ニ對シテハ同法第五百三十九條ニ定メタル場合ニ非サレハ故障ヲ爲スヲ得ス而テ豫審免訴ノ言渡ニ對シ檢察官ヨリ爲シタル故障ニ付キ重罪取調局ニ於テ被告人ヲ輕罪裁判所ニ送致シタル場



合其言渡ハ豫審判事ノ言渡ニ代ハル可キ者ト爲ス仍テ豫審判事ノ言渡ニ對シ上訴スルノ權ナキ被告人ハ法律上明文ヲ以允許シタル場合ヲ除クノ外之ニ代ハル可キ控訴裁判所重罪取調局ノ言渡ニ對シ上告ヲ爲スヲ得ス然ルニ輕罪裁判所ニ送附スル重罪取調局ノ言渡ニ對シ上告ヲ爲ス可キヲ被告人ニ允許スル正條ハ治罪法中絶テ之アルヲ見ス同法第四百八條及ヒ第四百十三條ニ據ルニ被告人ニ於テ重罪取調局ニ爲シタル管轄違ノ申立ニ付キ判決ヲ爲シタル時又ハ重罪取調局ノ言渡中終審ノ判決ヲ爲シタル箇條アリテ被告人ヲ送致ス可キ輕罪裁判所ニ於テ其言渡ヲ變更スルノ權ナキトキニ非サレハ被告人ハ其上告ノ權ヲ有セサルナリ

治罪法第二百九十九條ニ於テ被告事件ノ罪名ニ誤アルトキ重罪取調局ノ言渡ニ對シ上告ヲ許スノ明文アリト雖該條ト分離ス可ラサル第

二百九十六條ヲ參照スルニ該條ハ重罪裁判所ニ送附スルノ言渡ニノミ用フ可キ者ニシテ輕罪裁判所ニ送附スルノ言渡ニ及ホス可キ者ニ非ラサルナリ

抑本件ニ於テ上告ニ係ル重罪取調局ノ言渡ハペンタ、一ヲ被告ト爲スノ目的タル商法第五百九十七條ニ定メタル輕罪ノ豫審ニ付キ判決シ之ヲトランサン輕罪裁判所ニ送附シタル者ナリ被告人ハ重罪取調局ニ對シ事件ヲ送附ス可キ輕罪裁判所ハ犯罪ノ場所種類又ハ被告人ノ身分ニ付キ管轄違ナル旨ヲ申立タルノ廉ナシ故ニ上告ニ係ル裁判言渡ニ於テハ管轄違ノ申立ニ付キ判決ヲ爲シタル者ニ非ス又輕罪裁判所ニ於テ法律上附與セラレタル全權ヲ以判決スルノ妨ケト爲ル可キ終審ノ判決アリタルニ非ス重罪取調局ヨリ送附ヲ受ケタル輕罪裁判所ハ被告事件ノ罪名ニ付テハ重罪取調局ニ於テペンタ、一連累ノ



一人ヨリ被告事件ハ第五百九十七條ニ該ル者ニ非サル旨ヲ主張シタルニ拘ハラシテ重罪取調局ノ附シタル罪名ニ拘束セラレタル者ニ非ス故ニ上告人ヨリアルピール控訴裁判所重罪取調局ノ言渡ニ對スル上告ハ受理ス可キ者ニ非ス

以上ノ理由ニ據リ紀元一千八百七十四年十二月二十三日アルゼールノ控訴裁判所重罪取調局ノ言渡ニ對スルモ井ースペンタ、ノ上告ハ受理ス可キ者ニ非スト言渡ス者ナリ

紀元一千八百七十五年三月十九日

刑事局

裁判長

カルニエール

專任判事

サルモン

大代言人

ベダリード

代言人

ラルナツク

第二十六則

新聞社ノ持主其主幹者ノ更替アリタルトキ之ヲ州廳ニ届出而テ其新主幹者株券ニ幾分ノ所有權アル旨ヲ證明セサルニ由リ州長其届出ヲ認メサリシモ後之ヲ證明シタルニ依リ州長其訴權ヲ拋棄シ從テ民事裁判所ニ於テ新聞社持主ノ届出不規則ナル旨ヲ判決セサリシトキハ引續キ新聞紙ヲ發行シタルモ輕罪アリトシテ公訴ヲ受クル者勿ル可シ紀元一千八百二十八年七月十八日法律第六條及ヒ第十條

上告對手人ブリーツノ共和新聞持主ルセルボニエー

專任判事バルビエー報告ノ任ヲ受ケ左ノ取調書ヲ提出セリ

上告ノ理由ハ確實ナリト雖是果テ法律ノ正條ニ據ル者ナルカ曰ク



否上告者ト雖必ス其正條ニ據ラサルト認視セサルヲ得ヌ如何トナ  
 レハ正條ニ據レハ届出ノ有効若クハ無効ニ付テノ爭論ハ新ニ新聞  
 紙ヲ發行スル場合ニ非サレハ其發行ヲ止ムルヲ得サレハナリ  
 然レトモ法律ノ正條アラサルヲ以上告ニ於テハシヤサンノ説ヲ引  
 用シタル者ナリ今假ニ其説ヲ以非難ス可ラサル者トスルモ果テ上  
 告ノ場合ニ適切ニシテ上告ニ係ル裁判言渡ヲ取消ス可キ効力アル  
 者ナルヤシヤサンハ演説及ヒ出版ノ犯罪ト題シタル第一卷第八百  
 十六號ノ論ニ曰ク新聞社ニ於テ人ノ變更ヲ生シタルトキ之カ届出  
 爲スニ付テハ最初許可ヲ得タルトキト同一ナル爭論起ル者アリ而  
 テ其爭論ハ左ノ二個ノ場合ニ於テ起ル可キナリ其一届出ノ時○此  
 場合ニ於テハ届出ノ真正ナルヤ否又規則ニ從ヒタルヤ否ヲ争ヒ之  
 ヲ訴フル者ハ即チ州長ナリ而テ其争ハ民事裁判所ノ判決ヲ請フ可

キ者ト爲スト又其第八百十號ノ註解ニ曰ク届出不規則ナリト判定  
 シタリシニ於テハ届出ノ新聞紙ヲ發行シタルノ罪アリ其届出ニ付  
 キ爭論アルニ拘ハラヌ新聞紙ヲ發行シタルハ新聞社持主ノ過チナ  
 リト

是實ニ高尙ノ法理論タルハ疑フ可カラスト雖亦一點ノ批難ス可キ  
 所ナシト謂フ可キカ惟フニシヤサンノ説タル或ハ確實ナル者ノ如  
 シト雖既ニ其届出不規則ナル旨ヲ裁定シタル場合ヲ論シタル者ナ  
 リ然ルニ本件ノ如キハ届出ノ不規則ナルヤ否ニ付キ未タ何等ノ裁  
 判言渡アラヌ是等亦之ト同一ノ結果ヲ生セサル可ラサルカ恐クハ  
 大審院ニ於テ必ス躊躇シテ輒ク斷決シ難キ者アラン今上告ニ係ル  
 裁判言渡ニ於テ法律上ヨリ之ヲ觀レハ其新聞紙發行ハ絶エヌ相繼  
 續シ正當ニ法律ノ允許ヲ受ケタル者ナリ而テ管轄裁判所ニ於テ判



決ヲ爲サ、ル間被告人ノ引續キ新聞紙ヲ發行シタルモ紀元一千八百七十一年七月六日法律ノ第七條ニ定メタル刑ヲ受ク可キ者ニ非スト判決セリ此裁判言渡ハ諸君恐クハ眞理ニ適シタル者トセン若シ民事裁判所ニ於テ届出ノ不規則ナル旨ヲ言渡シタルニ於テハ上告ノ理由其當ヲ得タル者ナリ然ルニ民事裁判所ハ此點ニ付キ判決ヲ爲サ、リキ其故ハ原告人ナル州長ニ於テルセルボニエーノ證明ニ満足シ其爲シタル届ノ不正ヲ訴ニ裁判所ヲシテ其不規則ナル旨ヲ言渡サシムルノ權利ヲ拋棄シタレハナリ夫此訴權ノ拋棄ハ届出ノ日ニ訴リ其届出ヲ正當ニ爲シタル者ト謂フ可シ又輕罪ノ訴ハ管轄裁判所ニ於テ爲シタル届出不規則ナリトノ判決ニ基カサルヲ以其原因ナキ者ト謂フ可シ

判決

大審院ニ於テ紀元一千八百二十八年七月十八日法律第十條ニ背キタルニ基ク上告第一ノ理由ニ付キ上告人リモーシユ控訴裁判所檢事長ノ差出シタル趣意書ニ據リ判決ヲ下ス左ノ如シ

事實ニ就テ之ヲ觀ルニブリーヂニ於テ發行スル所ノ共和新聞ノ持主ルセルボニエーハ主幹者ノ更替アリタルヲ以紀元一千八百二十八年七月十八日法律第六條ニ從ヒ其旨ヲコレゾ州應ニ届出タリ然ルニ此届書中同法第五條ニ定メタル新主幹者ノ新聞社株券幾分ノ所有權アル旨ヲ證明セサリシ故ヲ以州長ハ同法第十條ノ規則ニ從ヒブリーヂノ民事裁判所ニ出訴シテ此届出ノ不規則ナル旨ヲ排撃セリ故ニルセルボニエーハ速ニ其證明ヲ爲セリ而テ州長ハ上告ニ係ル裁判言渡書及ヒ上告人ヨリ差出シタル意見書ニ示シタルカ如ク其訴ヲ維持シ届出ノ不規則ナル旨ヲ爭フノ權ヲ拋棄シタリキ



然ルハ檢察官ニ於テルセルボニエトハ規則ニ背キ且州長ノ認可シタル届出ナクシテ紀元一千八百七十四年十一月十五日ヨリ十二月九日ニ至ル迄其新聞紙ヲ發行シタルノ廉ヲ以輕罪裁判所ニ向ヒ公訴ヲ起シタルハ届出ノ正不正ニ付テ其爭論ヲ止メタル後ナリト爲ス

上告ニ係ル裁判言渡ニ於テ其主幹者新聞社ノ株券幾分ノ所有權アル旨ヲ證明スルノ義務即チ紀元一千八百二十八年法律第五條ニ定メタル義務ハ法律上現存スル所ニシテ紀元一千八百五十二年二月十七日敕書紀元一千八百六十八年五月十一日法律及ヒ紀元一千八百七十一年七月六日ノ法律ニ據ルモ此規則ハ廢セラレタル者ニ非サル旨ヲ確認スルニ拘ハラヌ此事實ノ顛末ニ據レハルセルボニエトハ紀元一千八百二十八年七月十八日法律第十條ノ規則ニ背キタルニ非サルヲ理由トシ同人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲シタル者ナリ

法律上ヨリ之ヲ觀ルニ此第十條ハ届出ノ規則ニ背キタルヤ否ニ付キ行政權ヨリ民事裁判所ニ出訴シタル場合ヲ定メタル者ニシテ其第二項ニ曰ク若シ新聞紙未タ發行セサルニ於テハ裁判言渡アル迄其刊行ヲ停止ス可シト

本訴ハ未タ發行セサル新聞ニ係ル者ニ非スシテ既ニ發行シ來タル新聞ノ主幹者ヲ變更シタルニ付キ爲ス可キ所ノ届出ニ關スル者ナリ此場合ニ於テ其新聞社ノ持主輕罪ノ公訴ヲ受ケタリトセンニ其公訴ハ新聞社主ノ届出不規則ナル旨ヲ民事裁判所ニ於テ確定シタル場合ニ非サレハ正當ノ理由ニ基ク者ト謂フ可ラス然ルニ本訴ハ民事裁判所ニ於テ届出ノ不規則ナル旨ヲ認定シタル者ニ非ス又之ヲ認定スル能ハサル者ナリ如何トナレハ行政權ニ於テ其届出ニ満足シタルヲ以ルセルボニエトハ行政權ニ於テ届出ノ不規則ナルヤ否ヲ爭ハサリシト



キト同一ノ位置ニ在ル者ナレハナリ  
是ニ由テ之ヲ觀ルニ上告ニ係ル裁判言渡ニ於テルセルポニエトニ無  
罪放免ヲ言渡シタルハ決テ法律ヲ侵シタル者ニ非ス仍テ紀元一千八  
百七十五年三月二十日リモ一シユノ控訴裁判所輕罪局ノ裁判言渡ニ  
對スル上告ヲ却下スル者ナリ

紀元一千八百七十五年四月三十日

刑事局

裁判長

カルニエール

專任判事

バルビエー

大發言人

チリオー

代言人

マセナーデロシエ

第二十七則

重罪裁判所ニ於テ偽證罪ノ爲メ速ニ證人ヲ捕縛ス可キ旨ヲ命シ而  
テ其任ヲ受ケタル豫審官ハ唯重罪取調局ヲシテ其證人ヲ重罪裁判  
所ニ移ス可キヤ否ヲ判決セシムルニ必要ナル證據ヲ蒐集スルノ任  
アルノミ

故ニ豫審官ヨリ證據書類ヲ檢察官ニ送附シタル以上檢事長ハ豫審  
官ニ向ヒ證人ヲ重罪取調局ニ送附ス可キノ言渡ヲ請求ス可キ者ニ  
非ス若シ其取調己ニ十分ナリト認ムルトキハ直ニ重罪取調局ニ訴  
フ可シ是其權内ニシテ重罪取調局ニ於テハ檢事長ノ意見ニ據リ且  
其報告ヲ得タル後直ニ判決ヲ爲ス可キナリ  
治罪法第二百十八  
條第三百三十條

上告人

シヤンペリー 控訴院檢事長某

ラヴァグラー



## 判決

今上告ニ係ル裁判言渡ニ於テ法律上認可シタル權利ヲ行ハントスル  
 検事長ノ請求ヲ肯セサルハ裁判管轄ノ規則ニ背キ及ヒ治罪法第三百  
 三十條ヲ誤解シタル者ナリト謂フニ原因シタル上、告第一ノ理由ニ付  
 キ治罪法第三百三十條及ヒ第四百八條ニ照シ大審院ニ於テ判決ヲ下  
 ス左ノ如シ

事實ニ就テ之ヲ觀ルニ去二月三日サヅチア一重罪裁判所ノ公判席ニ  
 於テ重罪被告人ノ證人タルラヅア、グラ一偽證ノ陳述ヲ爲シタルヲ以  
 重罪裁判所ハ直ニ其偽證人ノ逮捕ヲ命シ而テ偽證罪審問ノ爲メ治罪  
 法第三百三十條ノ規則ニ從ヒ重罪裁判所長ヲシテ豫審ヲ爲ス可キ旨  
 ヲ命シタリ豫審官ハ三月二十九日附ヲ以豫審書類ヲ檢察官ニ交附ス  
 可キノ言渡ヲ爲シ之ヲ交付シタルニ依リ檢事長ハ豫審十分ナリト認

メ治罪法第三百三十條及ヒ刑法第三百六十一條ニ從ヒ重罪偽證ノ罪  
 アリトシ被告人ヲ重罪裁判所ニ送附ス可キノ請求書ヲ以直ニ重罪取  
 調局ニ訴エタリキ

然ルニ重罪取調局ニ於テハ其檢事長ノ請求ニ應セス左ノ理由ニ據リ  
 未タ判決ス可キ者ニ非スト言渡シタリ其理由ニ曰ク重罪裁判所長ハ  
 豫審判事ノ職務ヲ行フ者ナレハ治罪法第二百二十七條及ヒ第三百三  
 十條ニ從ヒ處分セサル可カラス而テ豫審官ヨリ檢察官ニ豫審書類ヲ交  
 附スルノ言渡ハ檢察官ノ請求ヲ促スニ止ルノミ故ニ豫審官ハ檢察官  
 ノ請求ニ由リ證憑十分ナル場合ニ於テハ被告人ヲ重罪取調局ニ移ス  
 ノ言渡ヲ爲スヲ要ス而テ豫審官ノ干涉ヲ脫スルニ必要ナル此言渡ナ  
 キニ於テハ重罪取調局ハ正當ニ訴ヲ受タル者ニ非サルナリト云々  
 然レトモ法律ニ於テハ治罪法第三百三十條ニ定メタル場合ニ於テ重



罪裁判所長ハ平常豫審判事ニ属スル職務ヲ行フ者ナリ而テ此職務ハ  
 重罪裁判所長ノ固有ノ性質ト該條ニ定タル特別ナル審問法ニ必要ナ  
 ル急速トニ相適スル者ナリ故ニ紀元一千八百八年ノ治罪法ニ據レハ  
 重罪裁判所長ハ辨論中ニ生シタル偽證ノ審問ヲ爲スモ豫審判事ノ如  
 ク會議局ニ其報告ヲ爲スニ及ハサリシナリ此理由ニ據リ第三百三十  
 條ニ於テハ審問ノ書類ハ重罪取調局ニ送達ス可キ旨ヲ命シタリ  
 紀元一千八百五十六年七月十七日法律ニ據テ此規則ヲ改正セサリシ  
 ハ疑ヲ容ル可キ者ニ非ス而テ此法律ニ據ルモ紀元一千八百八年ノ治  
 罪法ト同ク第三百三十條ニ於テ重罪裁判所長又ハ其委任シタル他ノ  
 重罪裁判所判事ニ委託シタル職務ハ裁判權ニ非スシテ唯重罪取調局  
 ニ於テ判決ヲ爲スニ必要ナル證據ヲ蒐集スルニ在ルノミ然ラハ檢事  
 長ニ於テ其證據書類ヲ受取リタルトキハ豫審官ニ向ヒ被告人送附ノ

言渡書ヲ促ス者ニ非スシテ若シ取調十分ナリト認タルトキハ直ニ重  
 罪取調局ニ訴フ可ク而テ重罪取調局ハ治罪法第二百十八條ニ從ヒ其  
 意見ニ據リ且其報告ヲ得タル後判決ヲ下ス可キナリ  
 是ニ由テ之ヲ觀ルニ上告ニ係ル裁判言渡ニ於テ未タ送附ノ言渡アラ  
 サルヲ以重罪取調局ハ正シク公訴ヲ受ケタル者ニ非サルヲ名トシ檢  
 察官ノ請求ニ應セサリシハ其裁判管轄ノ規則ニ背キ及ヒ治罪法第三  
 百三十條并ニ第四百八條ニ背キタル者ナリ仍テ紀元一千八百七十五  
 年四月十六日シヤンペリ控訴裁判所重罪取調局ノ裁判言渡ヲ破毀  
 シ且之ヲ取消ス者ナリ

紀元一千八百七十五年五月七日

刑事局

裁判長

カルニエー

專任判事

ロペールドシヌヴ井エール



大代官人

ベダリド

第二十八則

重罪裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者唯其罪名ノ相異ナル同  
 一ノ事件ニ付キ更ニ輕罪アリトシテ訴ラレタル場合ハ之ヲ受理セ  
 サル可ラス但新ナル罪名ノ元素カ曩ノ罪名ヲ組成シタル情狀ト相  
 異ナルヲ以至要ト爲ス 治罪法第三  
百六十條  
 故ニ貸金返濟ニ充ツ可キ財産ヲ竊取シタルヲ以詐偽倒産ノ重罪ア  
 リトシ訴エラレタル分散人及ヒ其從犯トシテ訴エラレタル妻ニ對  
 シ重罪裁判所ニ於テ爲シタル無罪ノ言渡ハ其妻分散人ノ從犯ニ非  
 スシテ分散ニ屬シタル物件ヲ竊取隱匿シタルヲ以商法第五百九十

四條ニ從ヒ輕罪アリトシ更ニ再ヒ其妻ヲ輕罪裁判所ニ訴フルノ妨  
 碍ト爲ルナカル可シ

被告人      テヅニ

紀元一千八百七十五年三月二十四日ブザンソン控訴裁判所輕罪局  
 ニ於テ紀元一千八百七十五年二月十二日大審院ノ裁判言渡ニ據リ  
 其送附ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲ス左ノ如シ

輕罪裁判所ニ於テ控訴ヲ受ケタル事件ハテヅニ婦嘗テ重罪裁判  
 所ニ訴エラレ而テ正當ニ無罪ノ言渡ヲ受ケタル事件ト全ク同一ナ  
 リト爲ス果テ然ラハテヅニ婦ニ對スル控訴ハ受理ス可キ者ニ非  
 サルナリ

右ノ理由ニ據リ紀元一千八百七十四年十二月三日シマヨン輕罪裁  
 判所ニ於テ爲シタル裁判言渡ニ對シ檢察官ヨリ爲シタル控訴ニ付



キ大審院ニ於テ爲シタル送附ヲ受ケタルニ由リ當裁判所ニ於テ之ヲ判決スルニ檢察官ノ訴ハ受理ス可キ者ニ非ス仍テ被告人ニ對シ刑罰金及ヒ費用償還ノ言渡ヲ爲サス直ニ之ヲ放免ス

此裁判言渡ニ對シフザンソン控訴裁判所檢察長ヨリ更ニ上告ヲ爲シタリキ而テ其上告ノ方法ハ同一ノ事件ニ付キ同一ノ身分ヲ有スル原被兩告ニ對シ爲シタルシ、ヨソ控訴裁判所ノ裁判言渡ニ對スル上告ノ理由ト同一ニシテ即チ治罪法第三百六十條ノ誤用ニ基クテ以大審院刑事局ニ於テハ專任判事カメスカースノ報告ニ據リ紀元一千八百七十五年四月二十九日ニ判決ヲ爲シ其管轄違ナル旨ヲ言渡シ此事件ヲ各局合員會議ニ附シタリキ  
合員會議ノ專任判事マセー左ノ報告書ヲ差出セリ  
フザンソン控訴裁判所ノ檢察長ニ於テハ其上告ノ理由トシ論辯シ

テ曰ク大審院ノ判決事例ニ據ルニ治罪法第三百六十條ニ於テ一度無罪ノ言渡ヲ受ケタル者ハ同一ノ事件ニ付キ再ヒ訴ヲ受ケサル可シトノ主意ハ外形ノ事件ヲ指シタル者ニ非ス法律上ノ事件即チ陪審ニ附シタル事件ニシテ陪審其下附セラレタル罪名ヲ以審判シタル事件ヲ謂フ者ナリ右第三百六十條ニ所謂事件トハ其公訴即チ罪名ヲ下シタル重罪ヲ指ス者ニシテ公訴ノ原因タル外形ノ所爲ヲ指ス者ニ非ス蓋シ其精神タル重罪ニ付キ無罪ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ再ヒ同一ノ公訴ヲ受ク可キ者ニ非サル旨ヲ明示スルニ在リ  
第三百六十條ハ一事再ヒ理セサルノ格言ト確定裁判効力ノ原則トヲ適用シタルニ過サレハ一ノ公訴ニ付キ無罪ノ言渡アリタル者其第二公訴ノ原因第一公訴ノ原因ト同一ナラサル場合ハ再ヒ公訴ヲ受クルノ障碍トナル可キ者ニ非ス今上告人ノ述フル處ニ據ルニ本



訴ニ於テハ前後訴ノ原由同一ナリト爲セリ  
 此點ニ付テハ大審院ニ確實ナル所ノ判決事例アリ既ニ數案ノ判決  
 ナ以此問題ヲ決定シタルハ歷々眼ニ在リ今復判事諸君ニ向ヒ之ヲ  
 論出スルモ輒ク動ス可カラサルヲ知ルナリ其判決中ニハ各局合員  
 會議ノ上爲シタル判決數案アリテ皆重罪被告人ノ無罪ハ陪審ニ下  
 附シ而テ其決答シタル問題ノ區域内ニ止マリ公訴狀ニ記載シタル  
 事件ヨリ以外ニ及ホスヲ得サルト謂フニ根據セサルハナシ(紀元一  
 千八百十二年十月二十三日及ヒ紀元一千八百四十二年七月十三日  
 判決)

大審院ノ爲シタル判決ノ數例ヲ擧クレハ即チ左ノ如シ  
 一殺人ノ公訴ニ付キ陪審ノ無罪申立ニ據リ無罪ノ言渡ヲ受ケタル  
 者後不注意又ハ懈怠ニ由リ犯シタル殺人罪アリトシ輕罪ノ公訴

ヲ起シタルトキハ之ヲ受理セサル可カラス(紀元一千八百十二年  
 十月二十三日紀元一千八百四十二年七月十六日)如何トナレハ有  
 意殺重罪被告人ノ無罪ナル申立ハ無意殺ノ公訴ニ付キ殺人罪ノ  
 成立サリシ事及ヒ其被告人ノ無罪ナルヲ豫判シタル事ナケレハ  
 ナリ(紀元一千八百四十一年十月二十五日各局合員會議ノ判決)  
 二初生ノ子ヲ殺シタル罪アリトノ公訴ヲ受ケタル婦其公訴ニ付キ  
 無罪ノ言渡ヲ受ケタル後過失殺アリトシ輕罪裁判所ニ訴エラレ  
 タルトキハ之ヲ受理セサル可ラス(紀元一千八百四十一年十月二十  
 四日千八百四十年一月三十日紀元一千八百四十一年十一月二十  
 五日各局合員會議ニテ爲シタル判決紀元一千八百四十一年二月  
 五日紀元一千八百四十二年一月八日紀元一千八百四十二年五月  
 七日紀元一千八百四十五年三月六日紀元一千八百四十五年五月



二日及ヒ七月五日紀元一千八百四十八年四月十四日紀元一千八百五十年十二月二十七日紀元一千八百五十四年六月九日紀元一千八百五十五年六月三日紀元一千八百五十七年四月十八日判決如何トナレハ確定裁判ノ効力ハ第一裁判ノ目的タリシ所ニノミ存スル者ニシテ要求及ヒ訴ノ同一ナラサル所ニ及ホス能ハサレハナリ

三強姦又ハ暴行ヲ以爲シタル猥褻又ハ幼者ニ對スル猥褻ノ公訴ニ付キ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者更ニ單一ナル猥褻ノ罪又ハ公ケコ猥褻ヲ爲シタル輕罪アリトシ訴エラレタルトキハ之ヲ受理セサル可ラス(紀元一千八百十六年十一月二十二日紀元一千八百五十一年二月八日紀元一千八百五十三年三月十二日判決紀元一千八百五十五年十一月三日各局合員會議ニテ爲シタル判決紀元一千

八百五十八年九月三日紀元一千八百六十三年二月五日六月十八日七月二十三日八月二十八日判決)如何トナレハ其問題ハ唯強姦ノ重罪又ハ猥褻ノ重罪ノミニ付キ附シタル者ナレハナリ

四墮胎ノ公訴ニ付キ無罪ノ言渡アリタルトキ其公訴ノ目的タル事件ハ死ヲ與フルノ意ナクシテ術ヲ施シ遂ニ婦人ヲ死ニ至ラシメタル有意傷ノ重傷アリトシ後日訴ヲ受クルノ妨ケトナルナカル可シ(紀元一千八百五十六年六月二十七日及ヒ紀元一千八百六十三年七月二日判決)

五證書偽造ノ公訴ニ付キ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者同一ノ事件ニ付キ詐欺取財又ハ背信ノ罪アリトシ訴エラレタルトキハ之ヲ受理セサル可ラス(紀元一千八百十一年一月十一日紀元一千八百六十四年六月三十日及ヒ紀元一千八百六十八年二月二十八日判決)如



何トナレハ牒簿又ハ書類ヲ變更シタル事ナシトスルモ物品竊取ノ豫備ヲ爲シ又ハ既ニ竊取シタル罪ヲ掩ハン爲メ偽造ノ罪ニ據ラスシテ竊取ノ罪ヲ犯シ得レハナリ

又大審院ニ於テハ以上判決ニ係ル事件ト相反スル事件ニ付キ判決ヲ爲セリ此判決ハ以上ノ判決ヨリモ容易ナリト爲ス是銃獵輕罪ニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ發砲シテ公安ヲ害シタルニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者後日此同一ノ事件ニ付キ故殺ノ未遂罪アリトシ訴エラレタルトキハ之ヲ受理セサル可ラスト判決シタル者アリ

〔紀元一千八百七十三年三月二十二日及ヒ四月十八日判決〕

然レトモ大審院ニ於テ治罪法第三百六十條ノ規則ハ第二ノ公訴ニ係ル被告事件ノ罪名第一公訴ニ於テ與エタル所ノ罪名ト異ナルトキハ之ヲ適用ス可カラスト雖是新ナル罪名ノ元素舊罪名ヲ組成ス

可キ情狀ト異ナル場合ニ限ル者ナリト判決セリ而テ大審院刑事局ニ於テハ判決事例ヲ以定メタル一般ノ規則ニ對シ此制限ヲ設ケ之ニ依テ左ノ數個ノ判決ヲ爲セリ

一死ニ致ス可キ物質ヲ用ヒタル毒殺ノ公訴ニ付キ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者其死ニ致ス可キノ物質ヲ用ヒ故テニ疾病又ハ廢業ニ至ラシメタルノ罪アリトシ輕罪裁判所ニ再ヒ公訴ヲ受クルナカル可シ抑此所爲ハ刑法第三百一條ニ定メタル毒殺ノ重罪ニ限ル者ニシテ決テ同法第三百十七條ノ輕罪ヲ組成シ得可キ者ニ非ス如何トナレハ刑法第三百十七條ノ輕罪ハ其用ヒタル毒藥人ノ生命ヲ絶ツニ足ル可キ性質ヲ有セサル場合ニノミ適用ス可キ者ナレハナリ〔紀元一千八百五十三年二月二十三日判決〕

二公力者ニ對シ毆傷ヲ爲シタルトノ公訴ニ付キ無罪ノ言渡ヲ受ケ



タル者同一ノ事件ニ付キ官命ニ抗スル輕罪アリトシ再ヒ訴ヲ受クルナカル可シ但此官命ニ抗スル輕罪ヲ組成ス可キ暴行ハ則チ曩ニ無罪ノ言渡ヲ受ケタル毆傷ヲ指ス場合ヲ謂フ者ナリ(紀元一千八百五十六年七月五日判決)

三重罪裁判所ニ於テ商品運輸免許證書ヲ偽造シ及ヒ之ヲ使用シタルニ箇ノ公訴ニ付キ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者同一ノ事件ニ付キ其商品運輸免許證書ニ用ヒタル登記稅役所ノ印紙ヲ詐用シタルノ輕罪アリトシ再ヒ輕罪裁判所ニ訴エラル、ナカル可シ如何トナレハ偽造ナル商品運輸免許證書ヲ使用シタルトノ第一公訴中自ラ登記稅役所ノ印紙ヲ用ヒタル所爲ヲ包含スレハナリ(紀元一千八百七十四年四月十七日判決)

治罪法第三百六十條ノ精神既ニ斯ノ如クナレハテゾ一婦其夫ノ

權利者ヲ害シテ該貸金返濟ニ充ツ可キ財産ノ一部ヲ竊取シ又ハ隱匿シタリトシテ訴エラレタル事件ニ關シ其事情ヲ知リナカラ夫ヲ幫助シタリトノ公訴ニ付キ重罪裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケタルモ分散人ノ配偶者タルノ身分ヲ以分散人ト通謀セス分散ニ屬シタル物件ヲ竊取又ハ隱匿シタルノ廉ニ由リ商法第五百九十四條及ヒ刑法第四百一條ノ罪アリトシ輕罪裁判所ニ訴エラル、者果テコレアリトセンカ是亦前ト同一ナル外形ノ事件タルハ疑ナシ抑此二個ノ訴ヲ生セシメタルハ分散ニ屬スル物品ヲ竊取シタルノ事件ニシテ猶ホ殺人罪又ハ初生ノ子ヲ殺シタル事件ヨリ故殺ト過失殺トノ二個ノ訴ヲ生シ又同一ナル外形ノ事件ニ引續キテ強姦猥褻及ヒ公ケニ猥褻ヲ爲シタル等ノ罪名ヲ與ニ又一ノ婦人ニ對シ施シタル同一ノ治療ヨリ墮胎ノ重罪ニ付キ訴ヲ受ケタル後再ヒ單一ナル致



傷ノ罪アリトシ訴ヲ受ケ又偽造ノ重罪ニ付キ無罪トナリシ後詐欺  
取財又ハ背信ノ罪アリトシ再ヒ訴ヲ受ルカ如シ  
然ルニテヴニ一婦ニ對シ引續キ爲シタル二個ノ公訴ニ付キ二個ノ  
罪名ノ元素ハ果テ同一ナルヤ是乃チ本題ノ因テ以歸著スル所ナリ  
商法第五百九十一條ニ曰ク總テ分散シタル商人其貸金返濟ニ充ツ  
可キ財産ノ一部ヲ竊取シ又ハ隱匿シタルトキハ詐偽倒産ノ罪アリ  
トシ刑法ニ定メタル刑ニ處セラル可シトテヴニ一即チ分散シタル  
商人ノ告訴セラレタル罪ハ右法律ニ定メタル貸金返濟ニ充ツ可キ  
財産ノ一部ヲ竊取シ又ハ隱匿シタルノ重罪ナリ而テ其婦ハ此重罪  
ノ從犯即チ事情ヲ知テテヴニ一ノ罪ヲ豫備シ又ハ容易ナラシメ之  
ヲ幫助シタルニ付キ特ニ商法第五百九十三條ニ定メサル場合ノ爲  
メ詐偽倒産ニ付テノ從犯ヲ規定スル所ノ刑法第六十條ニ依リ此重

罪ノ從犯ナリトシ訴エラレタル者ナリ故ニテヴニ一ノ受ケタル公  
訴ノ元素ハ分散シタル商人ノ犯シタル竊取ニシテテヴニ一婦ノ受  
ケタル公訴ノ元素ハ犯人其事情ヲ知リテ此竊取ヲ幫助シタルニ在  
リ  
今ヤ商法第五百九十四條ニ定メタル罪即チテヴニ一婦ニ對スル第  
二公訴ノ目的タル罪ノ元素如何ヲ研究スルニ同條ニ曰ク「分散人ノ  
配偶者卑屬ノ親尊屬ノ親又ハ其同等ノ姻屬ノ親分散人ト通謀スル  
所ナクシテ分散ニ屬スル物品ヲ竊取又ハ隱匿シタルトキハ盜罪ノ  
刑ニ處セラル可シト  
テヴニ一婦其夫ト共ニ重罪ノ公訴ニ付キ無罪ノ言渡ヲ受ケタル後  
分散シタル商人テヴニ一ノ配偶者タル身分ヲ以分散人ト相通謀ス  
ル所ナクシテ分散ニ屬スル物品ヲ竊取隱匿シタルノ罪アリトシ輕



罪裁判所ニ訴エラレタルハ商法第五百九十四條ニ定メタル輕罪ノ主犯タルノ故ニシテ第五百九十一條ニ定メタル從犯タルノ故ニ非ス然ラハ此二個ノ訴ノ元素ハ同一ナラサルニ非サルヤ如何トナレハ第一ノ訴ニ於テハ分散人ノ犯シタルニ非サレハ重罪ノ性質ヲ有セサル事件ノ從犯ニ關シ第二ノ訴ニ於テハ分散人ニ非サル他人分散人ト通謀セシテ犯シタルニ非サレハ輕罪ノ性質ヲ有セサル事件ニ關スレハナリ

テゾニ一婦ニ對シ爲シタル重罪ノ公訴ハ分散人自ラ竊取シタルト主犯人ト從犯人ト相通謀シタルト此二個ノ情狀ニ依リ組成シタルニ非サランヤ

又テゾニ一婦ノ夫ト通謀スル所ナクシテ自ラ犯シタル竊取ヲ單一ナル輕罪ニ至ラシメタルハ分散人ト通謀シタル加重ス可キ情狀ノ

欠クル所アルカ爲メニ非スヤ又商法第五百九十一條及ヒ第五百九十三條ヲ參照スレハ分散人ノ利益ノ爲メ竊取ヲ爲シタルニ非サレハ詐僞倒産ノ重罪及ヒ其從犯ヲ組成セサル者ナリト謂フチ得サルカ若シ其竊取ヲ分散人自身ヲ爲シタルトキハ則チ分散人利益ノ爲メ犯シタルハ必然ナリ故ニ此竊取ノ從犯タル元素ノ一ハ主犯タル分散人ノ利益ノ爲メ犯シタルニ在リ是詐僞倒産ニ付キ刑法第六十條ニ定メタル以外ノ特別ナル從犯ノ場合ヲ定メタル商法第五百九十三條ニ於テ分散人ノ利益ノ爲メ其財産即チ動産及ヒ不動産ノ全部又ハ一部ヲ竊取又ハ隱匿シタルニ非サレハ詐僞倒産ノ刑ヲ以罰セサル所以ナリ

商法第五百九十四條ニ該ル可キ輕罪ハ之ニ反シテ此條件ヲ必要トセズ其竊取ハ自己ノ利益ノ爲メ爲シタルト分散人ノ利益ノ爲メ爲



シタルトキ問ハス唯該條ニ記載シタル者ノ一人竊取ヲ爲シタルノ  
所爲ノミニ由リ生ズル者ナリ  
是ニ由テ之ヲ觀ルニ本訴ニ於テ第二ノ公訴ハ第一ノ公訴ト相異ナ  
ル者ナリ其異ナル所ハ左ノ三點ニ在リ

一テゾニ婦ハ重罪ノ從犯トシテ訴エラレタルニ非スシテ輕罪ノ  
主犯トシテ訴エラレタリ

二竊取ノ輕罪ノ元素ハ分散人ト通謀セサルニ在リ然ルニ重罪ノ從  
犯ニ付テハ通謀ハ欠ク可ラサル元素ナリ

三商法第五百九十一條ニ定メタル重罪ノ從犯ハ分散人ノ利益ノ爲  
メ竊取シタルニ在リ然ルニ同法第五百九十四條ニ定メタル輕罪  
ハ此條件ヲ必要トセス該條ニ記載シタル者ノ中一人分散人ト通  
謀スル所ナクシテ分散ニ屬スル物品ヲ竊取シタルノミニテ組成

ス

果テ右ノ如クナレハ陪審ニ於テ重罪ニ關スル問題ニ付キ無罪ノ決  
答ヲ爲シタルモ未ダ下附セサリシ輕罪ノ問題ニ付テハ陪審ハ未ダ  
全ク之ヲ決セサリシ者ナリ然ルニフザンソンノ控訴裁判所ニ於テ  
輕罪裁判所ノ判決ヲ要求シタル事件ハ嘗テテゾニ婦ノ重罪裁判  
所ニ訴エラレ而テ無罪ノ言渡ヲ受ケタル所ノ者ト全ク同一ナルヲ  
理由ト爲シ檢察官ノ訴ヲ受理ス可キ者ニ非スト判決シタルハ二個  
ノ罪名ノ元素如何ニ著目セサル者ニシテ治罪法第三百六十條ヲ誤  
用シタル者ト謂ハサル可ラス是ヲフザンソン控訴裁判所檢察長ノ主  
張スル所ナレハ判事諸君ニ對シ檢察長ト控訴裁判所ト孰レカ本件  
ノ原則ト結果トニ付キ最モ至當ナル道理ヲ有スルカヲ判決セシテ  
企望スル所ナリ



合員會議局ノ判決

凡法律ニ從ヒ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者ハ同一ノ事件ニ付キ再ヒ訴テ受ケサル可シトノ治罪法第三百六十條ニ據リ大審院ニ於テ判決ヲ下ス左ノ如シ

治罪法第三百六十條ニ曰ク凡法律ニ從ヒ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者ハ同一ノ事件ニ付キ再ヒ訴テ受ケサル可シト其所謂事件トハ刑法上ノ事件ヲ謂フ者ナリ語ヲ換エテ之ヲ言ハ、其事件ヨリ生シタル公訴及ヒ其犯罪ヲ謂フ者ナリ之ヲ要スルニ該條ハ確定裁判効力ノ適用ニ過キサルノミ而テ其効力ハ前裁判ノ目的タリシ事ノミニ存シ要求及ヒ訴ノ前後同一ナラサル場合ニ生スル者ニ非ス仍テ該條ハ重罪裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者其罪名ノ相異ナル外形上同一ノ事件ニ付キ再ヒ輕罪裁判所ニ訴エラル、ノ妨トナル者ニ非ス如何トナレ

ハ此場合ニ於テ要求ノ原因二個ノ訴ニ付キ同一ナラサレハ陪審ノ下附セラレタル第一ノ罪名ニ關スル問題ニ付キ無罪ノ決答アルモ其効力ハ唯其下附セラレタル第一ノ訴ニ止マリ第二ノ罪名ヲ以爲シタル訴ニ及フ者ニ非ス但第二罪名ノ元素第一罪名ヲ組成シタル情狀ト相異ナルヲ要ス

テヴニ一ハ分散シタル商人ノ身ヲ以其權利者ヲ害シ貸金返済ニ充ツ可キ財産ノ一部ヲ竊取シ又ハ隱匿シタル罪アリトシ又其妻ハ事情ヲ知リテ此重罪ヲ豫備シ又ハ容易ナラシメ且之ヲ成就セシメタルノ所爲ヲ以分散シタル商人即チ其夫ヲ幫助シタルノ罪アリトシ共ニ重罪裁判所ニ送附セラレ而テ無罪ノ言渡ヲ受ケタリ其後テヴニ一婦ハ分散シタル商人即チテヴニ一ノ配偶者タル身ヲ以オークソンヌ<sub>地ニ於</sub>テ分散人ト相通謀スル所ナクシテ幾ト三年間分散ニ屬シタル物品ヲ



竊取又ハ隱匿シタルニ由リ商法第五百九十四條ニ於テ罰スル所ノ輕罪アリトシ輕罪裁判所ニ訴エラレタリキ

此輕罪ノ訴ノ原因タリシ罪名ハ嘗テ重罪公訴ノ原因タリシ罪名ト全ク相異ナリ何トナレハ今テゾニ婦ハ分散人ノ犯シタル重罪ノ從犯トシテ訴エラレタルニ非ス即チ分散人ト絶テ通謀シタル所ナキヲ以テ成立スル所ノ輕罪ノ正犯トシテ訴エラレタリ而テ其所謂通謀ナル者ハ其嘗テ訴エラレタル重罪ノ從犯ヲ組成スルニ必要ナル元素タリシ者ナリ又此輕罪ハ重罪ト違ヒ分散人其利益ノ爲メ犯シタルノ條件ヲ要セス自己ノ利益ノ爲メニシタルト分散人ノ利益ノ爲メニシタルトナ問ハス唯第五百九十四條ニ記載シタル者ノ中一人其竊取ヲ爲シタルニ由リ成ル者ナレハナリ

是ニ由テ之ヲ觀ルニ上告ニ係ル裁判言渡ニ於テ輕罪裁判所ニ對シ判

決ヲ要求セラレタル所ノ事件ハテゾニ婦ノ重罪裁判所ニ訴エラレ而テ無罪ノ言渡ヲ受ケシ事件ト同一ナリシテ理由トシ敢テ其二個ノ罪名中ニ存スル差異及ヒ其罪名ヲ組成シタル數個ノ元素如何ニ著眼セスシテ之ヲ受理ス可キノ訴ニ非スト判決セリ是治罪法第三百六十條ヲ誤用シ從テ之ヲ犯シタル者ト爲ス

以上ノ理由ニ由リ檢事長ノ上告ヲ理アリトシブザンソン控訴裁判所ノ裁判言渡ヲ破毀スル者ナリ

紀元一千八百七十五年七月七日

合員會議局

裁判長

ラ井ナール

專任判事

マセー

大代言人

ベタリノト

代言人

マゾー



第二十九則

蜜蜂ハ家畜ニ非ス從テ熱湯ヲ窠中ニ灌キ蜂ヲ殺シタル所爲ハ刑法第四百七十九條第一項ニ於テ罰スル所ノ他人ノ動産ニ付キ損害ヲ加エタル違警罪ヲ組成スル者ニシテ刑法第四百五十四條ニ定メタル家畜ヲ殺スノ輕罪ニ非ス

若シ熱湯ヲ灌キテ蜂兒ノ群カル土地ノ所有者ト其所有者ニ非サル者トノ間ニ共有シタル蜂兒ノ一群ヲ殺シタルトキハ所有者ニ非サル者ニ屬スル蜂群ノ一部ヲ殺シタルニ付キ即チ刑法第四百七十九條第一項ヲ適用ス可キナリ但其所有者ニ非サルモノニ對シ蜜蜂ノ窠ハ用方ニ由レル不動産ニ非サルナリ

被告人 タイユフエール

紀元一千八百七十六年一月十四日フチア輕罪裁判所ノ裁判言渡ヲ掲載スル左ノ如シ

紀元一千八百七十六年一月十四日呼出狀ニ據レハタイユフエールハ紀元一千八百七十五年十二月十一日ベンザーニ於テ必要ナキニモーリー夫婦ニ屬スル家畜ナル蜜蜂ヲ其夫婦ノ所有地又ハ借地ニ於テ殺シタルニ由リ刑法第四百五十四條ニ於テ罰スル輕罪アリトシテ訴エラレタリキ

然ルニ被告人ハ訴訟ノ發端ニ於テ裁判所カ呼出狀ニ記載シタル事件ヲ判定スルニ付キ管轄違ナル旨ヲ申立タリ仍テ裁判所ニ於テ其管轄違ノ申立ヲ審判スルニハ蜜蜂ハ家畜ナルヤ否ヲ定メサル可カラズ而テ裁判事例ニ據レハ家畜ナル語ノ意義ヲ解スル最モ廣シ人



ノ家宅内ニ在リ其保護ニ頼リテ生活シ成長シ畜養セラレ且蕃殖スル生類ヲ云フ

然ルニ蜜蜂ハ右ノ性質ヲ具備スル者ニ非ス尤モ幾分カ人ノ保護ニ頼リテ生活シ成長シ且蕃殖ヲ爲スト雖人ノ家宅内ニ棲ム者ニ非ス又家畜タルニ欠ク可ラサル條件ニ拘ハラヌシテ成長スルハ更ニ疑フ可カラヌ嘗テ羅馬法ニ於テ蜜蜂ヲ認テ家畜トナサ、リシハ之ヲ野畜ノ數中ニ列シタルヲ以明カナリ又昔時ノ命令ニ據ルモ同一ノ趣意ニ基キ蜜蜂ノ窠ヲ人家ヨリ遠ク農夫ニ諭シテ之ヲ人ノ住居及ヒ公道ヨリ隔ル豫定ノ距離外ニ置カシメタリキ又他ノ論點ヨリ之ヲ觀ルニ蜂ハ其自由ニ任カスニ非サレハ生活シ能ハサルニ依リ人之ニ對シ十全ナル占有權ヲ行フヲ得ス如何トナレハ蜜蜂ハ必スシモ其食物ヲ占有者ニ仰カサルニ由リ占有者ニ於

テ之ヲ抑留スル能ハス之カ爲メ其占有權ハ到底確定シ能ハサレハナリ

此等ノ條件アルヲ以縱令蜜蜂ノ逃逸シ又ハ行衛ヲ失ヒタルトキ之ヲ發見スル能ハス縱令之ヲ發見スルモ果テ同物ナルヤ否ヲ監定スル能ハス從テ又之ヲ取戻スヲ得サレハ蜜蜂ニ付テハ全ク一時ノ領收權ニ非サレハ之ヲ行フ能ハス而テ其領收權ハ眞ノ家畜ニ於ケル領收權ヨリモ不充分ニシテ且占有者ノ責任ヲ生セサル者ナリ以上ノ理由ニ就テ之ヲ觀レハ人ノ蜜蜂ニ與エタル保護及ヒ其之ニ由リ得ル所ノ利益ハ此虫ヲ家畜ノ數中ニ列スルニ足ラサル可シ若シ之ヲモ其數中ニ列ス可キ者ナリトセハ家畜ノ種類蓋シ其際限ナキニ至ル可シ又人ノ家畜タルヲ認ム可キ性質ハ人ニ馴レ人ト共ニ處リ遂ニ確然其人ニ屬スルノ慣行ニ在リ



以上ノ理由ニ據リ蜜蜂ハ家畜ノ數中ニ列ス可ラサル者ト爲ス仍テ  
呼出狀ニ記載シタル事件ハ刑法第四百五十四條ニ於テ罰ス可キ輕  
罪ヲ組成スル者ニ非サル旨ヲ言渡シ且管轄違ナル旨ヲ言渡ス者ナ  
リ

檢察官ノ控訴

第一判決

タイユフエールハモトリト夫婦ニ屬シタル蜜蜂ヲ必要ナキニ殺シタ  
ルノ罪アリトシ檢察官ヨリ輕罪裁判所ニ訴エラレ其辨論ニ取掛ル前  
蜜蜂ハ家畜ト見做ス可ラサルヲ以假リニ被告事件ハ證據アル者トス  
ルモ刑法第四百五十四條ニ該ツ可キ者ニ非スト謂フテ根據トシ管轄  
違ノ抵拒法ヲ提起セリ  
抑此點ニ付キ學者ノ説ト裁判事例トヲ按スルニ家畜トハ人ニ馴レ人

ノ家ニ生活シ及ヒ人ノ保護ニ頼リテ畜養セラレ而テ蕃殖スル所ノ物  
ヲ云フ而テ蜜蜂ハ羅馬法ニ於テ認定シタルカ如ク縱令人ノ領收シタ  
ル後ト雖仍ホ野畜タル性質ヲ失フ者ニ非ス蓋シ此虫ハ畜人ノ家宅内  
ニ在テ人ノ傍ニ生活セサルノミナラス其近傍ニ危害ヲ與フルノ故ヲ  
以亦人ノ住居ヨリ遠ケラル、者ナリ又此虫ハ人ニ馴ル、幾ト希ナル  
ヲ以其窠ニ近寄り其窠中ニ貯エタル蜜ヲ取ラントスルニハ人々最モ  
注意ヲ加エサル可ラサルナリ  
凡蜜蜂ヲ畜養セントスルニハ幾分カ所有者ノ監督ト保護トヲ要スル  
ト雖此虫ハ專ラ其食物ヲ近傍ノ花草ニ求メ而テ其採得タル甘露ヲ窠  
中ニ運搬スル者ナリ他ノ家畜ト相異ナル此等ノ差別アルヲ以蜜蜂ハ  
家畜ノ部類ニ列ス可キ者ニ非ス又刑法ハ主義ヲ擴充シテ解釋ス可ラ  
サルヲ以輕罪裁判所ニ於テ被告人ニ對スル事件ハ刑法第四百五十四



條ニ記シタル輕罪ヲ組成スル者ニ非スト判決シタルハ至當ナリト爲ス

然レトモ初審裁判官ハ全ク其干涉ヲ離レテ檢察官ノ公訴ヲ棄却ス可カラサル者ナリ其干涉ヲ離レ公訴ヲ棄却シタルハ不當ト謂フ可シ如何トナレハ苟モ請求ノ權ヲ有スル者ヨリ送附ヲ求メタルニ非サレハ裁判所ニ於テ宜シク其公訴事件果テ違警罪ヲ組成スルヤ否ヲ裁判ス可キ者ナレハナリ今控訴ニ於テモ之ト同一ノ事情アルヲ以テ控訴裁判所ニ於テハ治罪法第二百十三條ニ從ヒ之ヲ處分スルノ責アル者ト爲ス

タイユフエールカ蜜蜂ヲ殺シタル所爲ハ刑法第四百七十九條第一項ニ定メタル違警罪ヲ組成スル者ニシテ該項ハ同條ニ定メタル場合ヲ除クノ外凡他人ノ動産ニ付キ故意ヲ以テ損害ヲ加エタル者ヲ罰スル所

ノ正條ナリ又該條ハ其損害ヲ加エタル方法如何ト他人ノ動産ニ損害ヲ加エタル所爲ノ如何トヲ區別セス總テ之ヲ包括スル者ナリ蜜蜂ノ窠ハ民法第五百二十四條ニ從ヒ用法ニ由レル不動産ノ一ナリト雖此法律ノ假定ヲシテ成立セシメントスルニハ其土地ノ所有者其土地ヲ耕作シ及ヒ使用スル爲メ同條ニ定メタル數個ノ物件ヲ其土地ニ置クヲ至要トセリ今訴訟書類ニ就テ之ヲ觀ルニ故意ヲ以テ過半毀損セラレタル蜂窠ハモリーリ夫婦トモンダローノ相續人トノ共有ニ屬シ而テ其相續人ニ屬シタル庭中ニ在リシ者ナリ仍テモリーリ夫婦ニ對シ其蜂窠ハ全ク動産ナリ如何トナレハ民法ニ定メタル要件ヲ以テ之ヲ己レニ屬スル土地ニ附著セシメタルニ非サレハナリ然リト雖控訴裁判所ニ於テハ警部ノ調書及ヒ治安判事ノ報知ニ由ルモ未ダ心證ヲ資ルニ足ル可キ證據ヲ發見セサルヲ以テ當公判席ニ於テ



證人訊問ヲ言渡スニ必要ト爲ス  
 以上ノ理由ニ據リ當裁判所ニ於テフチア一輕罪裁判所ニ於テ爲シタル裁判言渡中タイユフェールノ被告事件ハ刑法第四百五十四條ニ定メタル輕罪ヲ組成スル者ニ非ストノ判決ヲ認可シ且其證アルニ於テハ此事件刑法第四百七十九條第一項ニ於テ罰スル違警罪ヲ組成スルモノト判定ス仍テ本案ヲ裁判セサル前檢察官及ヒ被告人ニ於テ其呼出ヲ必要ナリト信スル所ノ證人ノ陳述ヲ當公判席ニ於テ聽ク可キ旨ヲ言渡ス者ナリ

紀元一千八百七十六年三月三日

ツールーズ控訴裁判所輕罪局

裁判長 シュラモン

大發言人 ベンノ

代 言 人 ユゴチー

第二判決

當公判席ニ於テ爲シタル辨論及ヒ宣誓ノ上爲シタル證人ノ陳述ニ據レハタイユフェールハダリエー婦ノ一部ヲ所有シタル蜜蜂ノ窠中ニ熱湯ヲ灌キタル旨ヲ他人ニ目撃セラレタルニ相違ナシ而テ其蜜蜂ハ其窠中ニ於テ死シタリキ此被告人ニ對シ證明シタル所爲ハ刑法第四百七十九條第一項ニ定メタル違警罪ヲ組成スル者ニシテ其一項ハ文意廣ク同法第四百三十四條ヨリ四百六十二條ニ定メタル場合ヲ除キ總テ故意ヲ以他人ノ動産ニ損害ヲ加エタル者ヲ罰スルナリ  
 タリエー婦ニ對シ蜜蜂ノ窠ハ動産ノ性質ヲ有スル者ナリ如何トナレハタリエー婦ハ之ヲ己レニ屬スル土地ニ附著セシメタル者ニ非サレハナリ



以上ノ理由ニ據リタイユフエールハ紀元一千八百七十五年十二月十日  
一日ラヅラチーニ於テダリエー婦ニ屬スル蜜蜂ヲ殺シ故意ヲ以其動  
産ニ損害ヲ加エタルノ罪アリト判定シ同人ヲ罰金十五フランノ刑ニ  
處スル者ナリ

紀元一千八百七十六年三月三十日

ツールーズ控訴裁判所輕罪局

裁判長

ジュラモン

大發言人

ベノー

代 言 人

ユゴチー

第三十則

毎日一名ノ番人起臥シ而テ一週間ノ中一日ハ乗込總員ノ起臥スル  
船中ニ於テ犯シタル盜罪ハ人ノ住居シタル家ニ於テ犯シタル盜罪  
ヲ組成スル者ト爲ス刑法第三  
百九十條

被告人

ドンゼール

判決

被告人ドンゼールハ初審及ヒ控訴ニ於テ輕罪裁判所ノ管轄ヲ認メ又  
其辨護ヲ害ス可キ偽證アル旨ヲ發見シタルニ付キ當裁判所ニ豫審ヲ  
求メタルノ後其豫期シタル刑ノ言渡ヲ逃避センカ爲メ訴訟ノ最終ニ  
臨ミ當裁判所ノ管轄違ナル旨ヲ申立タリ  
管轄ニ關スル規則ハ公ケノ秩序ニ關スルヲ以當裁判所ハ先ツ此點ニ  
付キ判決ヲ下サ、ル可ラス今事實上ヨリ之ヲ觀ルニドンゼールノ「ラ  
クローノンヌドサヴア」號船名ニ於テ夜中盜罪ヲ犯シタル顛末ハ訴訟書類



及ヒ辨論ニ據リテ明カナリ而テ「ラクイロンヌドサヅア」號ハ月曜日ヲ除クノ外毎日アンヌシー<sup>名地</sup>ノ港ニ碇泊シ番人一名必ス船中ニ宿泊スルノ證アリ又月曜日ニハヌーサー<sup>名地</sup>ニ向テ解纜シ乗組人總員船中ニ宿泊ス此目的ヲ以同號ニハ常ニ人ノ住ミ得可キ備附ヲ爲シ粗其臍裁ヲ具セリ

又法律上ヨリ之ヲ觀ルニ刑法第三百九十條ノ文義ハ制限ヲ設ケタル者ニ非ス立法者ハ通常最モ人ノ住居ス可キ者ヲ示サソカ爲メ概例ヲ揭ケタル者ニシテ其用語ノ種類多キ所ヨリ之ヲ觀ンハ如何ナル場合ト雖人ノ住居スル時ハ加重ノ模様アリト爲スノ意ナルヤ明カナリ該法律ノ主眼タル人ノ現在スルトキハ或ハ惡徒ト住人ト相鬪爭等ノ事アリテ最モ危險上危險ヲ重ヌルノ弊アリ故ニ人ノ現在スルヲ以加重模様ノ元素ト爲シタルハ明々ナリ「ラクイロンヌドサヅア」號ニハ

一名ノ番人常ニ宿泊スルヲ以番人ノ爲メニハ其船ヲ住居ト認メザルヲ得ス抑此船ノ監守ノ爲メ特ニ番人ヲ附シタル所ヨリ之ヲ觀ルニ當ニ第三百九十條ノ文面ニ適スルノミナラス全ク法律ノ精神ニ適スル者ト爲ス

此解釋ハ嘗テ紀元一千八百十二年及ヒ紀元一千八百四十六年ニ於テ大審院ノ用ヒタル所ナリ人或ハ此二個ノ判決相異ナルヲ以非難ス可シト雖是全ク無益ノ非難ト謂フ可シ如何トナレハ紀元一千八百十二年ノ判決ニ於テハ船乗人ハ船ニ其居住ヲ有スル旨ヲ證明シ紀元一千八百四十六年ノ判決ニ於テハ人ヲシテ決心セシムルノ力アル此景况<sup>船ニ居住ス</sup>又ハ他ノ類似ノ景况ノ欠ケタル旨ヲ證明シタルハナリ然<sup>ルヲ云フ</sup>テハ則チ被告人ノ盜罪ハ夜間ト人ノ住居シタル家トノ二個ノ模様相合スルヲ以輕罪裁判所ノ管轄ヲ免カル、者ト爲ス



以上ノ理由ニ據リ當裁判所ハ管轄達ナル旨ヲ言渡ス者ナリ

紀元一千八百七十六年五月四日

シヤンペリ控訴裁判所輕罪局

裁判長 バツト

大代言人 シメール

第三十一則

被告人嚮ニ外國ノ裁判所ニ於テ刑ヲ言渡サレタル場合ハ法律上再犯ノ罪ヲ成立セス刑法第五十六條 縱令刑ノ言渡ヲ爲シタル所ノ外國後日佛蘭西國ニ合屬シタル場合ト雖亦同シ

破獄ニ係ル囚徒逃走ノ罪ハ此ニ再犯ノ規則ヲ適用ス可カラズ 監視ノ刑ヲ免レタル罪ニ對シ爲シタル言渡ハ之ヲ嘗テ監視ニ付シタル言渡ト合シテ再犯ノ景況ヲ成立セス刑法第五十七條第五十八條 然レトモ監視ノ刑ヲ言渡サレタル以前ニ於テ禁錮一年以上ノ刑ヲ受ケタルトキハ既ニ其再犯ノ景況ヲ成立スル者ト爲ス

被告人 シリバルヂー

第一判決

控訴裁判所ニ於テ之カ判決ヲ下ス其理由左ノ如シ 原裁判所ノ裁判嚮ニ外國ノ裁判所ニ於テ爲シタル所ノ刑ノ言渡ニ基キシリバルヂーニ對シ法律上再犯ノ景況アリト言渡シタルハ其當ヲ得タル者ニ非ス何トナレハ外國裁判所ノ言渡ハ佛蘭西國ニ於テ其効力ヲ有セサル者ナレハナリ此說ハ諸法學者ノ主張スル所ナリシヨール ヴァー



及ヒフオースタンエリ一兩氏ノ著書ニ係ル而テ此説ニ付テハ二三ノ  
刑法原論第五版第一卷第三百三十葉見合セ而テ此説ニ付テハ二三ノ  
反對説ナキニ非サルヲ以或ハ其疑ハシキ者アリト爲スモ寧ロ被告人  
ニ利ナル所ノ説即チ再犯ト爲サ、ルノ説ヲ取ルヲ以性理ニ適スル者  
ト謂フ可シ

國土ノ境界ハ一國主權ノ境界ナルカ故ニ外國ノ裁判所ニ於テ爲シタ  
ル裁判言渡ヲシテ佛蘭西國ニ於テ法律上ノ効力ヲ有セシメ又ハ之ヲ  
以再犯ノ刑ヲ適用スルノ起點ト爲ハ公法ノ原則ニ乖戾スル者ナリ  
外國ノ裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル後其外國ハ佛蘭西國ニ合屬  
シタルモ此事件ハ既往ニ溯ルノ力ナク又其景況ヲ變スルノ効ナシ而  
テ其合屬以前ニ係ル刑ノ言渡ハ仍ホ外國裁判所ニ於テ爲シタル裁判  
言渡ノ性質ヲ存有スル者ナレハ佛蘭西國ニ於テ法律上再犯ノ景況ヲ  
成立セシムル直接ナル効力ヲ有セサル者ナリ

是ニ由テ之ヲ觀ルニ合屬ノ以前ニ一ス裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケ  
タルシリバルザ一ハ合屬ノ後佛蘭西國ニ於テ其前科ナキヲ以法律上  
再犯ノ景況アラサル者ト爲ス

刑法第五十七條ニ據ルニ該條ニ曰ク何人ニ限ラズ重罪ノ爲メ刑ノ言  
渡ヲ受ケタル者更ニ懲治ノ刑ニ該ル可キ輕重罪ヲ犯シタルトキハ法  
律ニ定メタル刑ノ最長點ニ之ヲ處ス可シト蓋シ此條ノ精神ハ佛蘭西  
國ノ裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ限ル者ト爲ス  
右ノ理由ニ因リシリバルザ一ハ法律上再犯ノ景況アリト認視ス可キ  
者ニ非スト爲ス

紀元一千八百七十五年四月十四日

エノクス控訴裁判所輕罪局

裁判長

レスクウエ



檢事長代理 ミユニエー

大代言人 マリン

被告人 フリュネー

第二判決

控訴裁判所ニ於テ始審裁判所ノ裁判言渡ノ理由ヲ採用シ罪アリトノ言渡及ヒ禁錮六月ニ處シタル刑ノ言渡并ニ再犯ノ點ニ付キ爲シタル法律ノ適用ニ付キ判決ヲ下ス左ノ如シ

刑法第二百四十九條ニ於テハ重罪輕罪ノ未決已決囚ノ間ニ區別ヲ設ケス又重罪輕罪ノ輕重及ヒ無罪者有罪者ノ間ニ區別ヲ設ケスシテ暴行ヲ爲シ又ハ監倉獄舎ヲ破リテ脱監脱獄シタル罪及ヒ其未遂罪ハ皆之ヲ同一ノ刑ニ處スル者ナリ

然ルニ再犯ト再犯ニ非サルトノ間ニ於テ獨リ之カ區別ヲ爲スハ法律

ノ主義ニ於テ前後相牴觸スル者ト謂フ可シ加之此ノ如キ區別ヲ設クルトキハ竟ニ再犯ニ非サル所ノ重罪被告人又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ヨリモ再犯ナル所ノ輕罪被告人又ハ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ヲ嚴ニ罰シ再犯ニ非サル所ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリモ再犯ナル所ノ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ嚴ニ罰スルカ如キ不正ノ結果ヲ生スルニ至ル可シ

又一方ヨリ之ヲ觀察スルニ刑法第二百四十五條ニ於テハ刑ノ併科ヲ定ムル者ナレハ之ニ再犯加重ヲ擬スルトキハ其刑苛嚴ニ過クルニ至ル可シ

是ニ由テ之ヲ觀ルニ立法官ハ止テ監獄ニ繫留セラレ、者ニ就テ法ヲ設ケタル者ニシテ此特殊ナル罪ニ付キ刑法第二百四十五條ニ定メタル刑ハ他ノ罪ノ爲メ定メタル通常ノ規則ニ依ル可キ者ニ非ラズ故ニ



始審裁判所ニ於テハ刑法第五十七條ニ據テ判決スルヲ得ス又從テ同  
法第四百六十三條ニ論及スルヲ要セサルナリ

右ノ理由ニ因リ紀元一千八百七十五年二月十九日フアローズ輕罪裁  
判所ニ於テ爲シタル有罪ノ言渡及ヒ禁錮六月ノ言渡ヲ確認シ刑法第  
五十八條及ヒ第四百六十三條ノ誤用ヲ改正スル者ナリ

紀元一千八百七十五年四月二十一日

カエノン控訴裁判所輕罪局

裁判長

ピケ

檢事

ランフランドパンツ

被告人

ヘドロール

第三判決

控訴裁判所ニ於テ之カ判決ヲ下ス其理由左ノ如シ

巴里控訴裁判所ニ於テ紀元一千八百七十三年十一月十日ヘドロール  
ヲ監視ニ付シタル裁判言渡ハ之ヲ以被告人ヲ再犯者也トスルノ起點  
ト爲スヲ得スト雖右ヘドロールニ對シ紀元一千八百七十二年十二月  
十一日盜罪ノ爲禁錮一年一日ニ處シタル裁判言渡ハ然ラスト爲ス  
右裁判言渡アル以上ハ再犯ニ關スル一般ノ原則及ヒ刑法第五十八條  
ノ明文ヲ此ニ適用ス可キ者ト爲ス  
右ノ理由ニ因リ初審裁判所ノ裁判ヲ確認ス

紀元一千八百七十五年六月十四日

アンセール控訴裁判所輕罪局

裁判長

ブールシエ

檢事

ルーリ



第三十二則

刑ノ言渡ヲ爲シタル重罪裁判所ニ於テハ被告人既ニ其以前ニ係ル刑ノ言渡ニ據リ終身監視ニ處セラレタルヲ口實トシテ此監視ニ付キ判決ヲ爲サ、ルヲ得ス紀元一千八百七十四年一月二十三日ノ法律ヲ以改正シタル刑法第四十六條以下重罪裁判所ニ於テハ新ニ言渡シタル有期ノ刑ニ附屬スル所ノ監視ヲ法律ニ定タルカ如ク附加ス可キヤ又ハ其全部若クハ一部ヲ免除ス可キヤニ付キ審判ヲ爲サ、ル可カラズ

恩赦ニ依テ監視ノ刑ヲ減免スル者ナキニ非サレハ若シ其重罪裁判所ニ於テ之カ判決ヲ爲サ、ルトキハ其監視ノ刑ヲ法律ニ定タルカ如ク附加スルカ又ハ之ヲ減免スルカノ問題ニ付キ之カ判決ヲ爲サシメノカ爲メ其犯人ヲ他ノ重罪裁判所ニ送附スルヲ以犯人ノ利益

ナリト爲ス

上告人 ブラン

判決

大審院ニ於テ其職權ヲ以發見シタル所ノ監視ニ關スル理由ニ依リ之カ判決ヲ爲ス左ノ如シ

上告ニ係ル原裁判所ノ裁判ニ於テ被告人ブランハ紀元一千八百六十四年十月二十九日附テ以五年ノ懲役ニ處シタル刑ノ言渡ニ據リ終身監視ニ處セラレタルヲ以新ニ此附加刑ヲ言渡スノ理由ナシト判定シタリキ

法律上ヨリ之ヲ觀ルモ右最初ノ刑ノ言渡アルモ重罪裁判所ニ於テハ今ブランニ對シ新ニ言渡シタル有期ノ刑ニ附屬スル監視ノ最長期ヲ附加ス可キヤ又ハ其一部若クハ全部ヲ免除ス可キヤノ點ヲ判定スル



ノ義務ヲ免カソタル者ニ非ス  
再度ノ訴ニ係ル重罪ハ最初ノ刑ノ言渡後ニ係ルヲ以數罪俱發從重處  
分ノ原則ハ之ヲ本件ニ適用ス可カラサル者ト爲ス  
又一方ヨリ之ヲ觀ルニ刑法第四十六條ハ犯者既ニ監視ニ付セラレタ  
ル場合ト始メテ監視ニ付セラル、場合トノ間ニ於テ特ニ之カ區別ヲ  
設ケス

右紀元一千八百七十四年一月二十三日ノ改正ニ係ル法律ニ據ルニ有  
期徒刑又ハ禁獄懲役ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シ其刑ノ終リタル後  
當然二十年間監視ヲ受ケシム但刑ノ言渡ニ於テ其監視ノ期限ヲ短縮  
シ若クハ免除スル旨ヲ記載スルトキハ格別ナリト爲ス  
刑法第四十八條ノ成文ニ由テ之ヲ觀ルニ監視ノ刑ハ恩赦ニ依テ其期  
限ヲ短縮シ若クハ免除スルヲ得ル者ナリ

若シ上告人恩赦ニ依テ監視按スルニ此監視ハ最初ノ刑ノ言渡ヲ減免  
ニ據リ附セラレタル所ノモナリ  
セラレタルトキハ上告ニ係ル裁判言渡及ヒ刑法第四十六條ノ規則ニ  
依リ當然法律ニ定ムル所ノ監視按スルニ此監視ハ再度ノ刑ニ附ノ最  
屬スル所ノ監視ヲ謂フモノナリ  
長期ニ付セラレ可キ者ナリ故ニ監視ニ付キ判決ヲ爲サ、ルトキハ上  
告人ニ害アリ之ヲ他ノ重罪裁判所ニ移シ其監視ヲ法律ニ定タルカ如  
ク附加ス可キヤ又ハ之ヲ減免ス可キヤニ付キ判決ヲ爲サシムルトキ  
ハ上告人ニ利アリト爲ス  
右ノ理由ニ依リ紀元一千八百七十五年十月十八日ザール重罪裁判  
所ノ裁判ヲ破毀ス

紀元一千八百七十五年十一月十八日 刑事局

裁判長 カルニエール

專任判事 ビエロイ



大代言人  
チリオ

第三十三則

外國人放逐ノ布達ヲ犯シタルニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル外國人ハ其刑ノ終リタル時之ヲ國境ヨリ放逐ス可キ旨ヲ定ムル紀元一千八百四十九年十二月三日法律第八條ノ規則ハ佛蘭西國中ニ於テ地ヲ限リ自由ニ住居セシムル場合ニ行フ可キ所ノ監視ノ刑ト並ヒ行ハレサル者ナリ

故ニ浪遊乞丐ノ罪及ヒ外國人放逐ノ布達ヲ犯シタル罪ニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタル外國人ハ之ヲ監視ニ付スルヲ得ス  
刑法第四十五條及ヒ第二十七條  
第七十二條

被告人  
シエラルヂー

紀元一千八百七十五年十一月五日ウヰヒル輕罪裁判所ニ於テシエラルヂーハ浪遊乞丐ノ罪及ヒ外國人放逐ノ布達ヲ犯シタル罪アリト爲シ刑法第二百六十九條第二百七十一條及ヒ第二百七十四條並ニ紀元一千八百四十九年十二月三日法律第七條及ヒ第八條ニ依リ六月ノ禁錮及ヒ十年ノ監視ニ處セラレタリ

控訴人  
シエラルヂー

判決

控訴裁判所ニ於テ初審裁判ノ理由ヲ採用シ其有罪ノ言渡及ヒ刑ノ適用ニ就キ判決ヲ下ス其理由左ノ如シ

シエラルヂーハ浪遊乞丐ノ罪及ヒ外國人放逐ノ布達ヲ犯シタルノ罪アリトシテ六月ノ禁錮及ヒ十年ノ監視ニ處セラレタリ



紀元一千八百四十九年十二月三日法律第八條ニ據ルニ外國人放逐ノ  
 布達ヲ犯シタルニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタル外國人ハ其刑ノ終リタル  
 時之ヲ國境ヨリ放逐ス可キ者ナリ而テ此法律ニ於テ命スル所ノ規則  
 ハ佛蘭西國中ニ於テ地ヲ限り自由ニ住居セシムル場合ニ行フ可キ所  
 ノ監視ノ刑ト並ヒ行ハレサル者ト爲ス  
 右ノ理由ニ依リ且治罪法第三百六十五條ノ規則ニ從ヒシエラルヂ  
 浪遊乞丐ノ罪及ヒ外國人放逐ノ布達ヲ犯シタルノ罪アリト爲シタル  
 言渡及ヒ禁錮六月ニ處シタル言渡ヲ確認シ之ヲ監視ニ付シタルノ言  
 渡ヲ改メシエラルヂレテ監視ヲ免カラシムル者ナリ

紀元一千八百七十五年十二月八日

カエン控訴裁判所輕罪局

裁判長

ヘルラン

大代言人

タルヂイフドモアトリ

第三十四則 第三則

對質ノ上審問シタル所ノ被告人ニ裁判言渡ノ日ヲ報告セス欠席ノ  
 儘ニテ裁判言渡ヲ爲シタルモ之カ爲メ其裁判ヲ以無効ト爲サス然  
 レトモ被告人ノ上告期限ハ之ニ對シ爲シタル所ノ裁判言渡ヲ承知  
 シタル日ヨリ之ヲ起算ス可シ治罪法第百九十九條  
 救恤院ノ金庫ヨリ仕拂フ可キ仕拂切手ニ勘定書ヨリ餘分ナル金額  
 ヲ得ル爲メ又ハ自己ノ用ニ供シタル物品ノ代價ヲ拂フ爲メ捺印シ  
 タル所爲ハ詐僞取財ノ罪ト謂フ可カラズ然レトモ贗造ノ罪ヲ成立  
 ス刑法第百四十六條



之ヲ以該捺印者ハ公務人ノ身分ヲ以捺印シタルト救恤院會計部ノ  
仕拂命令人ノ身分ヲ以捺印シタルトヲ問ハス又其事件單ニ刑法第  
百五十條ニ問擬ス可キ者ナルニ拘ハラヌ單ニ重罪裁判所ノ管轄ニ  
屬ス可キ者ト爲ス

上告人  
ブールガル

スーベ井ロール

判決

大審院ニ於テブールガル及ヒスーベ井ロールノ被告事件ニ就キ原裁  
判所ニ於テ其裁判ヲ此兩被告人ノ面前ニ非スシテ言渡シタリト申立  
ル所ノ兩上告人ニ係ル上告ノ理由ニ對シ之カ判決ヲ下ス左ノ如シ  
治罪法第九十條ヲ觀ルニ其規定シタル所ノ法式ヲ履行セサルモ之  
カ爲メ其裁判ヲ以無効ニ歸スル者ト爲サス而テ既ニ裁判言渡前對質

ヲ開キタルトキハ法律上裁判所ニ於テ其關係被告人ノ面前ニ在ラサ  
レハ裁判言渡ヲ爲ス可カラサルトノ義務ヲ負フ者ニ非ス而テ被告人  
ニ於テ其裁判言渡ヲ爲ス可キ日ノ報告ヲ受ケサリシト其裁判ヲ被告  
人ノ不在ニ於テ言裁シタルト此二個ノ結果ハ唯右被告人ノ上告期限  
其裁判言渡ヲ承知シタル日ヨリ始テ起算ス可キ者ナリ

原裁判所ノ裁判言渡ニ對シ兩上告人ヨリ上告ヲ爲シタル所ニ就テ之  
ヲ觀ルニ上告人ハ原裁判言渡ヲ承知シタルハ明瞭ナリト爲ス而テ上  
告人自ラ辨護スルカ如ク其上告ハ正當ナル期限内ニ爲シタル者ナレ  
ハ大審院ニ於テ此兩上告人ノ權利上其充全ヲ得セシム者ナリ然レト  
モ右上告ハ其理由ナキ者ナリ

前文ノ理由ニ依リスーベ井ロール外一名カ爲シタル所ノ上告ヲ却下  
ス



然レトモ輕罪裁判所ニ於テ認視シタル所ノ被告事件ハ刑法第四百十六條ニ依リ罰ス可キ所ノ贗造ノ罪ニシテ輕罪裁判所ノ管轄ニ屬セサル所ノ者ヲ詐僞取財ノ罪ナリト言渡タルハ管轄ノ規則ニ違背シタル者ナリト申立ル所ノブールガルカ一身ニ止マル上告ノ理由ニ對シ之カ判決ヲ下ス左ノ如シ

事實上ブールガルハガルボン邑ナル救恤院ノ金庫ヨリ仕拂フ可キ百四十六フラン四十サンチーム仕拂切手ニ捺印シタリキ然ルニ此仕拂切手ノ根本トナル可キ勘定書ニ記載スル所ハ僅ニ百十六フラン四十サンチームニ過キヌ加之此救恤院ノ金庫ヨリ仕拂フ可キ一千二百九十二フランノ仕拂切手ニ捺印シタリキ此切手ニ記シタル金員ノ總額ハ該院ノ使用シタル諸用度物品ノ價額ヲ包括シタルノミナラスブールガル自己ノ用ニ供シタル物品ノ價額ヲモ之ニ含蓄シタリキ

刑法第四百五條ニ於テ輕罪裁判所ニ訴エタル事件詐僞取財ナルトキハ之ニ對シ輕罪裁判所ニ於テ適用スルヲ得可キ所ノ刑ヲ規定セリ然レトモ右第四百五條ノ末項ニ於テ該所爲眞ニ僞計ヲ以眞實ナル物件ヲ變更シタル所ノ書類ヲ發行シタルニ依リ成立スルヲ以贗造罪ノ性質ヲ有スルニ於テハ之カ最モ重キ刑ニ處ス可ク乃チ重罪裁判所ニ屬スル旨ヲ明示セリ

ブールガルカ發行シタル書類ハ即チ贗造罪ヲ成立ス是眞ニ惡意ヲ逞フシタル書類ニ據テ眞實ヲ更變シ及ヒ他人ニ損害ヲ與エタル者ナリ右仕拂切手ヲ交附シタル顛末ハ刑法第四百五條ニ定メタル犯罪ニアラスシテ重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス可キ眞ノ贗造罪ナリト爲ス而テ其仕拂切手ニ捺印シタルヤブールガルニ於テハ公務人ニシテ之ヲ爲シタルト該會計部ノ仕拂命令人ニシテ之ヲ爲シタルト區別スルヲ要セ



ス又殊ニ此所爲ハ刑法第五百十條ニ問擬ス可キ所ノ一事件ニ該ルヤ  
否ヲ審定スルヲ要セス如何トナレハ本件ノ書類ニ現ハル、カ如キ眞  
實ヲ變更シタルノ罪何レノ場合ニ於テモ充分輕罪裁判所ノ管轄外ナ  
リト爲セハナリ

右ノ故ヲ以輕罪裁判所ニ於テブールガルニ對スル被告事件ヲ受理シ  
タルハ其管轄ノ規則ヲ犯ス者ナリ

前文ノ理由ニ依リ紀元一千八百七十四年四月二十四日ツールズ控  
訴裁判所ノ判決ヲ破毀ス

紀元一千八百七十四年四月二十四日 刑事局

裁判長 カルニエール

專任判事 ヘルトラフ

大發言人 テンヤルタン

代言人 チユボア

第三十五則

宗教上ノ神器ヲ裝飾シ且公衆ニ募リ禮拜堂又ハ神壇上ニ於テ共同  
禮拜ヲ爲スハ乃チ宗教上ノ祭リヲ施行スル者ナリ  
邑廳ノ允許ヲ受ケス祈願ヲ籠メ疾病ヲ全愈セシム可キ契約ヲ爲シ  
公衆ヲ誘聚スル爲メ宗教ヲ行フ所ノ禮拜堂ヲ家屋内ニ設置シタル  
者ハ刑法第二百九十四條ニ問擬ス可キナリ

被告人 ソーヴェストル

第一判決

控訴裁判所ニ於テ被告人ソーヴェストルカ其私室内ニ法律ニ背キタ



ル宗教上ノ祭リヲ施行シタル所爲ニ對シ之カ判決ヲ下ス左ノ如シ  
審問上ニ就テ之ヲ觀ルニ被告人ソージュエストルハフナーヘルチ井所  
屬ノ家屋ニ附屬シタル場所ニ於テ永久ノ方法ヲ設ケ神壇ヲ築キ其壇  
上ニヒロメースノ聖像ヲ安置シ草花又ハ各種ノ具物ヲ備エ祈願ノ額  
面數個ヲ掲ケ幻華燈或ハ萬年燈ヲ陳列シタリキ而テ此被告人并ニ會  
合ヲ爲シタル各人カ此壇上ニ於テ其聖像ヲ祭ルニ被告人カ設ケタル  
所ノ法式及ヒ宗教上ノ規則ニ循ヒ疾病ノ全愈ヲ求ムルカ爲メ之カ祈  
願ヲ爲セリ

此等ノ所爲ハ其全體ヨリ之ヲ觀ルニ宗教ノ施行ヲ成立スル者ナリ  
右ノ所爲タル被告人ソージュエストルニ於テ抗辨セサルノミナラス此  
事件ニ付キ豫審ニ於テ提供シタル證據ヲ參考スルニ被告人ハ邑廳ヨ  
リ明許又ハ默許ヲ受ケサリシナリ故ニ被告人ハ刑法第二百九十四條

ノ成條ニ違背シタル者ト爲ス

右ノ故ヲ以初審裁判所ノ裁判ハ之ヲ確認スルニ由ナク改審ス可キ者  
ト爲ス

右ノ理由ニ依リ改審ヲ言渡ス者ナリ

紀元一千八百七十四年八月二十六日

デージョン控訴裁判所第二局

裁判長 クリニー

大代言人 ルボン

第二判決

對質上ノ證據ニ就テ之ヲ觀ルニフナーベルチ井ノ田野監守人某カ去  
十一月十一日フランツァンソージュエストルノ住居ニ至リタリシトキ此  
女ノ領スル所ノ部屋ハ既ニ禮拜堂ニ變シタルヲ發見シ且此ソージュエ



ストルカ所有ニ係ル一室ナル旨ヲ證據立タリキ而テ其壇前ニ於テ幻  
 華燈ヲ點シ及ヒ蠟燭ヲ地上ニ點置キ此内四名ノ外國人アリ即チ一男  
 三女ニシテ蓋シ禮拜ノ爲メ來集シタル者ナリト確認セリ  
 此ノ如ク證明シタル事實ニ眞ノ性質ヲ與エントスルニハ紀元一千八  
 百七十四年八月此被告人ニ對シ爲シタル公判ノ目的タル事件ト比照  
 セサルヲ得ス而テ此事件ハ前事件ト相繼承スル者ナリ  
 此事件ハ宗教上ノ神器ヲ裝飾シ及ヒ公衆ヲ募リ禮拜堂ニ於テ共同祈  
 願ノ爲メ禮拜ヲ爲ス所ノ顛末ハ宗教上ノ祭リヲ施行シタル所以ナリ  
 ト認視セサルヲ得ス  
 被告人ハ邑廳ノ允許ヲ受ケタルニ非ス九月ノ初ニ於テフチャーヘルチ  
 井ノ邑長ハ此不法ノ所爲ヲ廢絶ニ至ラシメンカ爲メ其處分ヲ爲シタ  
 リキ

故ニ右被告人ニ對シ言渡シタル犯罪ハ充分ニ證明シタル者ナリ  
 紀元一千八百七十四年八月二十六日此同罪ニ對シ罰セラレタルソ  
 ヲゾエルトル女ハ此懲戒ニ依リ毫モ改良ノ効ヲ見サリシ  
 ソゾエルトルノ目的トスル所ハ病疾ノ平愈ヲ求ムル所ノ公衆ヲ其  
 家ニ引入レ且一般公衆ノ妄信ヲ盛ナラシムルニ外ナラサルヲ以尙ホ  
 罰ス可キノ所爲ナリト爲ス  
 右ノ理由ニ依リ改審ヲ言渡ス者ナリ  
 紀元一千八百七十四年十二月三十日

デーション控訴裁判所第三局

裁判長

サヴェロツト

大代言人

カルドー



第三十六則

贋造ノ貨幣又ハ物件ヲ使用シタル者其贋造ナルヲ覺知シタル顛末ハ重罪ヲ組成スルニ欠ク可カラサル元素ナリト爲ス刑法第三百五條及ヒ第三百六十條第一及ヒ第二判決

之ヲ以贋造貨幣使用ノ罪ヲ訴エタル場合ニ於テ陪審ニ附シタル問題ハ贋造物ヲ使用シタル被告人其贋造タルヲ覺知シタル形狀アリシヤナ記載セサル可カラス若シ然ラサレハ陪審ノ決答ハ其効ナキ者ト爲ス第一判決

重罪裁判所長ニ於テ其辨論ヨリ生シタル旨ヲ以下附シタル所ノ問題ヲ上告ノ上破毀シタル場合ト雖重罪裁判所ニ送附スル所ノ言渡書ニ基キ下附シタル所ノ問題ニ對シ陪審ニ於テ既ニ否ト決答シタ

ルトキハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス可キ者ニアラス治罪法第四條百二十九條

二判決

上告人 レト

第一判決

大審院ニ於テ其職權ニ據リ發見シタル所ノ理由刑法第三百三十五條第一項及ヒ第六十三條ニ乖戾シタル者ナリトノ上告ノ理由ニ付キ之ヲ判決ヲ下ス左ノ如シ

前文法律ノ成條ニ據ルニ贋造若クハ變造物ヲ使用シタル者其貨幣並ニ其他ノ物件ノ贋造又ハ變造タルヲ覺知シタル顛末ハ重罪ヲ組成スルニ欠ク可カラサルノ元素ナリ

上告人レトニ對シタル公訴ニ付キ左ノ二個ノ問題ヲ陪審ニ下附シタリキ



其一 レトハ佛蘭西國ニ於テ法律上ノ適用ヲ爲ス銀貨ヲ贋造シタルノ罪アリヤ

其二 レトハ佛蘭西國ニ於テ法律上ノ通用ヲ爲ス所ノ贋造ノ銀貨ヲ使用シタル事件ニ關與シタルノ罪アリヤ

陪審ハ此第一ノ問題ヲ否トシ第二ノ問題ヲ然リトシ之カ決答ヲ爲シタリキ

若シ此上告人ニ對シ銀貨ノ贋造犯人ナリト認視シタルニ於テハ其贋造物ノ使用ニ關與シ其贋造シタルヲ覺知シタルハ最モ明瞭ナリト爲ス

然レトモ贋造ノ事件ト其使用ニ關與シタル事件トハ性質ヨリ之ヲ觀ルモ法律ヨリ之ヲ論スルモ素ヨリ分別ス可キ者ナレハ陪審ニ對シ右ノ所爲ヲ各個ニ判別シ其問題ヲ下附セサル可カラス

贋造物使用ノ事件ト贋造ノ事件ト分別シテ單一ニ之ヲ觀ルニ前文記載シタル刑法ノ成條ニアリテ明示シタルカ如ク被告人ニ於テ其使用シタル銀貨既ニ贋造タルヲ覺知シタル上ニ非サレハ重罪ノ性質ヲ組成セサル者ナリ

右贋造銀貨ノ使用ニ關與シタル事件ニ付キ陪審ニ下附シタル問題ハ上告人ニ於テ其使用シタル銀貨ノ贋造物ナル事又ハ其贋造ナルヲ覺知シタルヤノ點ヲ記載セス唯此貨幣ノ贋造タル旨ヲ指示シタルニ止マルノミ故ニ陪審ニ於テ此重罪ヲ組成スルニ欠ク可カラサル所ノ元素即チ贋造タルヲ覺知シタルヤ否ヲ決答シ能ハサリシナリ之ヲ以陪審カ然リト爲シタル決答ハ不充分ノ者ニシテ之ニ基キ該刑ヲ言渡スヲ得サル者ナリ故ニ原裁判所ノ裁判ハ前文記載シタル刑法第三百三十五條及ヒ第百六十三條ヲ侵ス者ナリト爲ス



右ノ理由ニ依リ紀元一千八百七十五年一月二十二日フヒニステール  
重罪裁判所ノ裁判及ヒ上告人贋造ヲ使用シタル事件ニ關與シタルノ  
罪アリヤトノ問題ニ對シ陪審カ爲シタル決答ヲ破毀シ贋造ノ問題ニ  
對シ爲シタル陪審ノ決答ヲ保持シ之ヲ他ノ裁判所ニ移ス者ナリ

紀元一千八百七十五年二月十八日 刑事局

裁判長 カルニエール

專任判事 ハルビエール

大代言人 ベタリート

上告人 ウーダン

第二判決

大審院ニ於テ其職權ヲ以發見シタル所ノ理由刑ノ言渡ヲ爲シタル所  
ノ問題ニ贋造物ヲ使用シタル被告人其物ノ贋造タルヲ覺知シタリシ

ヤ否ノ點ヲ記載セサリシハ刑法第三百三十五條及ヒ第六十三條ニ乖  
戾シタル者ナリトノ上告ノ理由ニ付キ之カ判決ヲ下ス左ノ如シ  
重罪裁判所長カ重罪裁判所ニ送附スル所ノ言渡ニ基キ其締問シタル  
所ノ手續ヲ觀ルニユリゼウーダンハ紀元一千八百七十五年巴里府ニ  
於テ佛蘭西國ニ法律上ノ通用ヲ爲ス銀貨ヲ贋造シタルノ罪アリヤノ  
問題ニ添テ辨論ヨリウーダンハ贋造銀貨ヲ使用シ又ハ之ヲ陳列シタ  
ル事件ニ關與シタルノ罪アリヤトノ問題ヲ下附セリ  
此第二ノ問題ノミニ對シ陪審ハ然リト決答シタリシト雖之ヲ以充分  
ニ其贋造物タルヲ知テ使用シタルノ事實ヲ證スル者ニ非スト爲ス抑  
前文記載シタル法律ノ成條ニ據ルニ贋造物使用ノ事件ハ贋造事件ト  
分別シテ論究セサル可カラス而テ被告人其使用シタル貨幣ノ贋造タ  
ルヲ覺知シタル以上ニ非サレハ重罪ノ性質ヲ組成スル者ニ非スト爲



ス今陪審ノ決答ニ於テハ其重罪ノ性質ヲ組成スルニ最モ緊要ニシテ  
 欠ク可カラサル所ノ此形狀ヲ確認セザリシ之ヲ以陪審ノ決答ニ據ル  
 ニ毫モ罪ス可キ所爲アラサルナリ  
 此第二ノ問題ハ無効ト看做ス可キ者ナリ而テ第一ノ問題ハ規則ニ循  
 ヒ爲シタル所ノ問題ニシテ陪審之ニ對シ否ト決答シタルニ依リウ  
 ダンハ自己ニ對スル贗造罪ノ公訴ヲ免レタル者ト認視セサル可カラ  
 ス故ニ治罪法第四百二十九條ニ循ヒ他ノ裁判所ニ移スヲ要セス直ニ  
 破毀ノ言渡ヲ爲ス可キ者ナリ但檢察官ニ於テ贗造貨幣ノ使用ニ關與  
 シタルノ所爲アリト爲シ更ニ公訴ヲ起スハ妨ケナキ者ト爲ス  
 右ノ理由ニ依リ紀元一千八百七十五年十月十三日ウーダンニ對シ贗  
 造貨幣ヲ使用シタル罪アリトシ無期ノ徒刑ニ處シタル塞納重罪裁判  
 所ノ裁判及ヒ此貨幣ヲ使用シタル事件ニ付キ陪審ニ下附シタル所ノ

問題并ニ此問題ニ對シ陪審ノ然リトシ爲シタル決答ヲ破毀シ贗造ノ  
 所爲ニ就テ下附シタル第一ノ問題并ニ此問題ニ對スル陪審ノ決答ヲ  
 保持シ而テ他ノ裁判所ニ移スノ理由ナキ者ナリ又他ノ事由ニ據テ拘  
 留セラレサル以上ハ右ウーダンニ放免ス可キ旨ヲ言渡ス者ナリ

紀元一千八百七十五年一月十八日 刑事局

裁判長 カルニエール  
 專任判事 カメスカツズ  
 大代言人 チリオー

第三十七則

書面主ノ本人ニ満足ヲ得セシム爲メ第三ノ人ノ家ニ到ルヲ承諾セ



サルニ於テハ背信ノ罪ヲ擧ケ裁判所ニ訴テ爲ス可シト脅迫シタル所ノ書面ヲ惡意ニテ人ニ送リタル所爲ハ脅迫取財ノ未遂犯ナリト爲ス刑法第四百條第二項

裁判官ハ刑法ニ定メタル犯罪組成ノ元素ヲ補足スルノ爲メナラスシテ唯訴ニ係ル書面ノ意義ヲ明了ニシ又ハ之ヲ確認セシカ爲メ縱令脅迫ヲ爲シタル後ノ景狀ニ係ルト雖之ニ據テ判定ヲ爲スヲ得可シ

故ニ若シ脅迫ノ書面ニ被告人要求スル所ノ満足ノ性質ヲ明示セサル場合裁判官ハ被告人其指示シタル所ノ第三ノ人ニ對シ金額ヲ指出スニ於テハ其告訴ヲ願下ク可キ旨ヲ書面請取人ニ知ラシメタルニ依リ右脅迫ノ目的ハ全額ヲ指出サシムルニアリト言渡スヲ得可シ

被告人ニ於テ告發ヲ爲ス可シト脅迫シタルハ其權利アル所ヲ要求セシカ爲メナリト自信シタルトノ顛末ハ犯罪ヲ湮滅セシムルニ充分ノ効力アル者ナル歟本件ハ大審院ニ於テ決定セサル所ナリ

上告人 シヨレ

判決

大審院ニ於テ上告ノ一面刑法第四百條ニ差定メタル要件ハ原裁判所ノ裁判ニ於テ刑ノ言渡ノ基礎ト爲シタル書面中ニ書載セル者ナク又他ノ一面原裁判所ノ裁判言渡ニ於テ上告人ヨリ善意ナリト申立タル所ノ抵拒法ニ對シ判決ヲ下サ、リシハ刑法第四百條第二項ヲ誤用シ及ヒ紀元一千八百十年四月二十日法律第七條ニ乖戾シタルト申立ル所ノ理由ニ付キ之カ判決ヲ爲ス左ノ如シ

其一



上告ニ係ル裁判言渡ニ於テ此被告人ハ刑法第四百條第二項ニ差定メタル脅迫取財未遂犯ノ罪アリト明言セリ  
右原裁判所ノ裁判言渡ハ先ツ上告人ニ惡意アル旨ヲ證明シタル上ニテ此上告人ハ昔日其耕作人タリシ所ノサントウールナル者自己ニ對シ背信ノ罪ヲ犯シタルヲ口實ト爲シ若シ自己ノ望ヲ達センカ爲メ其指示ス所ノ第三ノ人ノ家ニ到ラサルニ於テハサントウールヲ二十四時内ニ裁判所ニ訴エ之ヲ收監セシム可シト脅迫ヲ載スル所ノ去九月二十七日附ノ書面ニ基キ之カ判決ヲ爲シタリキ  
右書面ニ於テ被害者ノ名譽ヲ害ス可キ所ノ誣告ヲ爲ス可シト脅迫ヲ爲シタルハ明瞭ナリト爲ス但其告訴狀ハ規則ニ從ヒ爲シタル豫審ニ於テ既ニ無實ナリト認視シタル所ノ者ト爲ス  
右書面ニ上告人要求スル所ノ満足ノ種類ヲ明示セサルニ於テハ原裁

判所ノ裁判言渡ニ於テ該事實就裡翌十月三日ヲ以シユレ被告人カ兼テ指示シタル第三ノ人ニ五百フランヲ差出スニ於テハ其爲シタル所ノ告訴ヲ願下ク可キ旨ヲサントウールニ通知シタルノ景狀ニ基キ九月二十七日附書面ノ目的ハ金額ヲ差出サシムルニ在リシ旨ヲ推定スルヲ得可キ者ナリト爲ス

裁判官ハ縱令脅迫ヲ行ヒタル後ノ景狀ニ係ルト雖刑法ニ差定メタル犯罪組成ノ元素ヲ補足スルノ爲メナラスシテ唯訴ニ係ル書面ノ意義ヲ明了ニシ又ハ之ヲ確認センカ爲メ之ヲ取用シ據テ其判決ヲ下スハ法律ノ敢テ禁スル所ニ非サルナリ

此ノ如ク明瞭確的ナル裁判ハ之ヲ以被告人カ犯セリト確認シタル脅迫取財ノ未遂罪アリト言渡ス所ノ基礎ト爲スニ充分ナリト爲ス

其二



控訴裁判所ニ供出シタル所ノ意見ニ於テ被告人ハ舊耕作人タリシ者ノ債主ナリト信認シタル旨ヲ申立刑ヲ受ク可カラサル者ナリト抵拒法ヲ提出スト雖裁判言渡ニ於テ此事ニ付キ始審裁判所ノ言渡ヲ採用シテ此ノ如ク信認シタルハ被告人トサントウールトノ間ニ於テ兩三日以前ニ爲シタル決算ニ依ルニ決テ信用ス可カラサル者ナリト審斷セリ

被告人ニ於テ再ヒ請求ノ訴ヲ起スノ權アルヲ自信セリト謂ハンカ其訴ハ民事裁判所ニ爲ス可キ者ニシテ夫ノ憎ム可キ脅迫ノ所爲ト謂フ可キ者ニ非ス而テ訴訟ヨリ生スル一切ノ事件ニ據ルニ其惡意ヲ以爲シタルハ明瞭ナリト爲ス

故ニ原裁判所ノ裁判言渡ハ紀元一千八百十年四月二十日法律第七條ニ乖戾シタルニ非ス全ク其規則ヲ履行シタル者ナリ

右ノ理由ニ依リ此本案ノ外詐僞取財ニ係ル上告ノ理由ニ付テハ別ニ判決ヲ與ニス紀元一千八百七十五年五月七日ツールズ控訴裁判所輕罪控訴局ニ於テ爲シタル裁判言渡ニ對シシユレヨリ爲シタル上告ヲ却下スル者ナリ

紀元一千八百七十五年七月十六日

刑事局

裁判長

カルニエール

專任判事

ロヘール、セ子ヅビエール

大代言人

チリオ

代言人

レサージュ



訴訟ニ關係セザリシ者自己ノ名義又ハ其亡父ノ名義ヲ以爲シタル  
 上告ハ縱令原裁判所ノ裁判言渡ノ理由ニ於テ其亡父ノ所爲ニ對シ  
 罪アリトナシタルトキト雖受理ス可キ者ニ非ス  
 控訴裁判所ノ書記ニ於テ受理ヲ拒ミタル所ノ上告ハ使吏ヲシテ書  
 記ニ催促狀ヲ送致セシメタルヲ以正ク成立タル者ト爲ス  
 刑法第四百十二條及ヒ第四百十三條ニ明記シタル記號贋造ノ罪及  
 ヒ贋造記號使用ノ罪ヲ成立スルニハ其變造シタル所ノ印章若クハ  
 記號等公ケノ用ニ供スル者ナルヲ必要トセス政府若クハ各官署ヨ  
 リ發シタル者ヲ以既ニ充分ナリト爲ス故ニ右ノ罪ハ政府ノ用達人  
 ニ於テ陸軍卿ノ配下ニ屬スル物品買上ケ委員カ其買上ケタル羅紗  
 ニ附ス可キ所ノ印章ヲ變造シタルニ依リ成立スル者ナリト爲ス  
 贋造者其印章ノ形跡出所記號ニ據リ政府ヨリ發出シタル者ナリト

覺知シタルニ於テハ右印章別ニ政府ヨリ發出シタル者ナル旨ヲ表  
 スル別段ノ記號ヲ之ニ記シタルヲ必要トセス

此ノ如キ場合ニ於テ私ニ記載ヲ附シタルハ委員ノ羅紗檢書ヲ免カ  
 レンカ爲メナリト爲ス裁判言渡ニ之ヲ記載シタルハ充分損害ヲ生  
 シタル旨若クハ其損害ノ生ス可キ旨ヲ證明シタル者ナリ

始審裁判所ノ裁判官ニシテ一事件ノ豫審ニ干與シタル裁判官ハ控  
 訴裁判所輕罪局ニ於テ同一ノ事件ニ付キ爲シタル裁判ニ干與シタ  
 ルモ其効アリト爲ス 治罪法第二  
 百五十七條

上告人 ルーゲロール

同 カエンリチン

關係人 某

判決



大審院ニ於テレノモン及ヒアレキサントルセ井リエール兄弟ヨリ爲シタル上告ノ不規則ナルヤ否ニ付キ判決ヲ下ス左ノ如シ

上告人等ヨリ差出シタル書類ニ付テ之ヲ觀ルニ上告人等ハ紀元一千八百七十四年二月十八日巴里控訴裁判所ノ裁判言渡ニ對シ上告ス可キノ申立ヲ期限内同裁判所書記局ニ爲シタルノ際書記ハ右上告ノ請取證ヲ渡ス可キヲ拒ミ之ヲ肯セス仍テ同月二十日使吏ヲ以催促狀ヲ送達シタルニ書記ハ尙ホ執拗ニシテ之ヲ肯セサリシ次第ナリ其上告ノ不規則ナルハ全ク上告人意外ノ景狀ニ基ク者ナレハ此不規則ヲ補ハソカ爲メ右送達シタル所ノ催促狀ニ依リ此上告ヲ有効ナリト認視スルヲ得可キ者ナリト爲ス

右上告人等ノ上告受理ス可キ者ナルヤ否ニ付判決ヲ下ス左ノ如シ

治罪法第七十七條第二百十六條第四百八條及ヒ第四百十三條ノ成

文ニ據ルニ上告ハ檢察官民事原告人又ハ被告人トシテ其訴訟ニ干與シタル者ニ非サレハ何人ヨリト雖終審裁判言渡ニ對シ之ヲ爲スヲ得サル者ナリ

又上告ハ裁判言渡ノ理由ニ對シ之ヲ爲スヲ得サルハ是動カス可カラサルノ規則ナリ故其上告ヲシテ効アラシメントスルニハ其裁判言渡ニ對シ之ヲ爲サル可カラズ

又確定裁判ノ効力ヲ有スル者ハ獨リ判決ノミ而テ前文掲載シタル所ノ法律ノ箇條ニ於テハ此確定裁判ノ効力ヲ有スル者ニ對スルニ非サレハ訴訟關係人ニ上告ヲ爲スヲ許サル者ナリ

レノモン及ヒアレキサントルセ井リエールニ於テ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ爲シタルト己レ相續人タル所ノ亡父ノ代人若クハ訴訟關涉人中途ヨリ訴訟ニ加入ノ身分ヲ以テ之ヲ爲シタルトハ措テ之ヲ問ハス自ラ此訴訟スル者ヲ云



ニ干與スル者ト爲ス  
 上告人等ハ其亡父ト均ク始審裁判所又ハ控訴裁判所ニ於テ未ダ嘗テ  
 該訴訟ニ干與セザリシナリ又事實セ井リエールノ父某ハ紀元一千八  
 百七十三年二月十二日豫審判事ヨリ輕罪裁判所ニ移ス可キノ言渡ヲ  
 受ケタリシト雖輕罪裁判所ノ喚出以前ニ於テ既ニ死去シタルカ故ニ  
 治罪法第二條ノ規則ニ從ヒ右某ニ對スル公訴ハ消滅シ爾來被告人ト  
 シテ訴訟ニ關係スルヲ免カレタル者ナリ  
 本人ノ關係セサル訴訟ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテハ其相續人ヨリ  
 上訴ヲ爲スヲ許ス可キ者ニ非ス  
 加之右裁判言渡中判決ノ部ニハ上告人等ヨリ直接若クハ間接ニ上告  
 ヲ爲スノ廉アラスト爲ス  
 實ニ上告人等ニ於テ控訴裁判所ニ明言シタル理由ハ其全軀若クハ一

二ノ章句ニ就テ之ヲ觀ルニ刑ノ言渡ニ均キ所ノ有罪ノ言渡ヲ包含ス  
 ルハ虛言ニアラサル旨ヲ申立ル者ナリ然レトモセ井リエールノ父某  
 ニ對シ起シタル訴訟ニ關係スル所ノ被告人ノ罪ヲ審定センカ爲メ控  
 訴裁判所ニ於テ自ラセ井リエールノ父某ノ所爲ヲ述ヘサル可カラサ  
 ルノ場合ニ至リシ者ナレハ縱令既ニ輕罪裁判所ノ管轄ヲ脱シタル人  
 ノ行狀ヲ示スニ用ヒタル所ノ文字過度ナリト爲スモ之ヲ以右裁判言  
 渡中大審院ニ上告スルヲ得可キ所ノ懲罰ノ言渡ノ性質ヲ有スル者ナ  
 リト爲スヲ得ス  
 右上告人等カ此訴訟ニ關涉スルハ其道理アラサル者ナリ是訴訟ニ關  
 涉スルノ權ハ直接ニ上告ヲ爲スノ權ト均ク訴訟關係人若クハ其代人  
 ノ外之ヲ有スル者ニ非ス  
 右ノ理由ニ依リローモン及ヒアレキサントルセ井リエールカ其爲ス



所ノ者直接ノ上告タルト亡父ノ訴訟ヲ引受ケテ爲ス所ノ上告タルト  
 訴訟ニ關涉スル者ナルトヲ問ハス之ヲ受理ス可キ者ニ非スト言渡シ  
 且右上告人等ニ對シ官庫ニ罰金ヲ納ム可キ旨ヲ言渡ス者ナリ  
 原裁判所ノ裁判言渡ニ於テ刑法第四十二條及ヒ第四百十三條ノ規則  
 ハ官署印章ノ性質ヲ有セサル印章ノ變造ニ適用ス可キ者ナリト審定  
 シタルハ右等ノ箇條ヲ誤用シ且之ヲ侵ス者ナリト申立ル上告ノ理由  
 ニ付キ之カ判決ヲ爲ス左ノ如シ  
 政府トセ井リエール舖店トノ間ニ取結ヒタル買上契約書第十三條ニ  
 於テ特ニ差定メタル委員ニ於テ見本ニ適合シタリシト看認メタル羅  
 紗ニハ其織口ニ洗除ス可カラサル記標ヲ附シ又羅紗服仕立上ケノ後  
 各衣類ニ存在セシムヘキ其他ノ印章ヲ羅紗裏面ノ各所ニ附ス可キ旨  
 ヲ規定シタリキ

陸軍卿ヨリ正當ニ任セラレタル委員ニ於テハ右ノ規則ヲ遵守シテニ  
 箇ノ印章ヲ使用セリ第一ノ印章ハ楕圓形ニシテ之ヲ取用的ノ印章ト  
 稱シ而テ之ニ取用ノ文字ヲ記シ其印章ノ周圍ニ〔備警兵物品請取委員〕  
 云々ト記載ス第二ノ印章ハ直角形ニシテ用方的ノ印章ト稱シ〔衣服〕股  
 引外套ナル三語中ノ一名ヲ記載ス

原裁判所ノ裁判言渡ニ於テ右第二印章ヲ變造シタル旨ヲ證明シ從テ  
 ルーゲロール及ヒ其共被告人ニ對シ刑法第四百十二條及ヒ第四百十  
 三條ヲ適用セリ

右ノ適用ハ被告事件ノ事實ニ據テ其正當ナルヲ證明スル者ナリ  
 果テ然ラハ陸軍卿ノ配下ニ在テ事ヲ執ル委員ノ製造シタル直角形ノ  
 印章ハ官ノ印章ノ性質ヲ有スル者ニシテ且其用方ニ依テ重要ナル者  
 ナリト爲ス右印章ヲ附スルノ目的ハ政府ニ對シ調達品ノ正實ナルヲ



保證スルニ在リ而テ其印章ヲ變造シ及ヒ其變造記號ヲ使用シ又ハ私ニ真正ノ印章ヲ使用スルハ委任者ニ對シ其受ケタル所ノ委任ヲ執行スルニ損害ヲ及ホス者ナリ

加之右印章ハ委員ト請負契約人トノ間ニノミ用フル者ナルヲ以足レリト爲ス決テ衆目ニ觸ル可キ一般ノ公事ニ用フルノ性質アルヲ要セサルナリ果テ然ラハ何等ノ法律ニ據ルモ刑法第四百二十二條及ヒ第四百十三條ニ掲載シタル印章若クハ記號ハ公ケノ用ニ供スル者ノミヲ必用トセス唯政府若クハ各官署ヨリ發シタル者ヲ以足レリト爲ス故ニ原裁判所ノ裁判言渡ハ前文掲載シタル條々ニ乖戾シタル者ニ非ス又其誤用ヲ爲シタル者ニ非ス

原裁判所ノ裁判言渡ニ於テルーゲロールカ犯罪組成ノ元素ヲ消滅セシメンカ爲メ申立タル抵拒法ニ對シ判決ヲ爲サ、リシハ紀元一千八

百十年四月二十日法律第七條ニ乖戾スル者ナリト申立ル所ノ上告第四ノ理由ニ付キ之カ判決ヲ爲ス左ノ如シ

ルーゲロールハ其不規則ナル羅紗ヲカエン、リチンニ引渡シタルモ唯買主ニ損得ヲ生スル所ノ商法上ノ取引ヲ爲シタル者ナリト主張シテ其善意ナル旨ヲ證明スルニ勉メリ然レトモ原裁判所ノ裁判言渡ニ於テ其不規則ナル所ノ羅紗ハ其織口ナク且其採用ト用方トヲ差示シタル第二ノ印章ヲ附シセ井リエール舖店ヨリカエン、リチンカ製造場ニ到達シタル顛末ハルーゲロール自ラ之ヲ供述シ而テカエン、リチン及ヒフーラン、ジエーハ其情ヲ知テ之ヲ請取リタル者ナリト認視セリ

原裁判所ノ裁判言渡ニ於テ右認視シタル所ハルーゲロールヨリ善意ナリト申立タル所ノ抵拒法ヲ充分ニ排棄シタル者ト爲ス從テ紀元一千八百十年四月二十日法律第七條ニ定メタル規則ヲ履行シタル者ナ



原裁判所ノ裁判言渡ニ於テカエン、リチンハ印章記號ヲ贋造シ及ヒ贋造若クハ真正ナル印章記號ヲ使用シタル者ニ非スト認視シナカラ左ノ三件即チ第一備警兵及ヒ巴里府戍衛兵ノ衣服ニ用フ可キ羅紗ニ政府ノ名ヲ附ス可キ印章若クハ記號ヲ贋造シ若クハ贋造セシメタル事第二贋造ノ印章若クハ記號ヲ使用シタル事第三真正ノ印章ニ對シ政府ニ害ヲ及ホス可キ使用ヲ爲シタル事右ニ依リカエン、リチンニ對シ刑ヲ言渡シタルハ刑法第四百二十二條第四百十三條ニ乖戾シタル者ナリト申立タル所ノ上告カエン、リチン及ヒシユタンヨリ其利金ノ爲メ差出シタル趣意書中第一ノ理由ニ付キ之カ判決ヲ爲ス左ノ如シ

原裁判所ニ於テ爲シタル裁判言渡ノ全軀ニ就テ之ヲ觀ルニカエン、リチン及ヒルীগロールハ相通謀シテ罪ヲ犯シタル者ナリト認視セリ

就中右裁判言渡ニ於テカエン、リチンハ其情ヲ知タルীগロールヨリノ引渡ヲ受ケタル者ニシテ且カエン、リチンハ本件ニ關スル印章及ヒ記號ヲ贋造シ若クハ贋造セシメタルノ罪アリト認視セリ

右認視シタル所ヲ以之ヲ論スレハカエン、リチンハ公訴ニ係ル事件ニ干與シタル者ナルヲ證明スルニ充分ナリト爲ス

加之上告人<sup>カエン、リチン</sup>ハ贋造ノ印章及ヒ記號ヲ故ラニ使用シタルノ罪アリト言渡サレタル者ナリ今此言渡ハ單ニ此ノミヲ以刑ノ適用ヲ正當ナリト確認スルニハ充分ナリト爲ス

原裁判所ノ裁判言渡ニ於テハ羅紗及ヒ其他織物ノ性質品位又ハ其多寡ニ付キ詐僞ノ廉ナシト爲シ又罪ヲ組成スルニ欠ク可カラサル所ノ元素即チ損害若クハ損害ヲ生スルノ意思アリタリシト裁判言渡中ニ證明セスシテ徒ニ被告人ニ對シ刑法第四百二十二條及ヒ第四百十三條



ニ定メタル所ノ刑ヲ科シタルハ此等ノ成條ニ乖戾シタル者ナリト申立タル所ノ上告第二ノ理由ニ付キ之カ判決ヲ爲ス左ノ如シ

原裁判所ニ於テ爲シタル裁判言渡ノ理由ニ就テ之ヲ觀ルニ詐僞ヲ以テ記號ヲ押用シタルノ目的ハ羅紗及ヒ仕立上ケノ衣服既ニ委員ノ檢査ヲ經タル者ナリト信セシメタルヲ以其檢査ヲ免カレシ者ナリト爲ス故ニ右ノ詐僞ハ委員ニ於テ其本務ヲ踐行シ及ヒ其調達シタル羅紗及ヒ衣服ハ其用ニ適スル者ナルヤ否ヲ查定スルヲ妨礙セント計畫シタル者ナリ

右認視シタル所ハ損害ノ生シタル事若クハ其生ス可キ事ヲ充分ニ證明シタル者ナリト爲ス

控訴裁判所ニ於テ別ニ政府ヨリ發出シタル者ナル旨ヲ表スル所ノ記號ニ非サル直角形ノ印章ヲ以政府ノ記號ト同ク審定シタルハ刑法第

百四十二條及ヒ第四百十三條ニ乖戾シタル者ナリト申立タル所ノ上告第四ノ理由ニ付キ之カ判決ヲ爲ス左ノ如シ

原裁判所ノ裁判言渡ニ於テ直角形ノ印紙ハ公ケノ用ニ供スル者ニ非ス物品買上ケ委員ト請負契約人トノ間ニ於テ協議ノ上行ヲ可キ取引ノ結果ヲ確定スルノミノ用ニ供スル者ナリト證明セリ

是ヲ以右ノ印紙ハ政府ノ官吏ノ干渉スル者ナルヲ確然表出スル所ノ記號ナルヲ必要トセス用達人ニ於テ之ヲ認メ而テ用達人ニ於テ印章ノ出處及ヒ其記號ニ付キ誤解シ得サラシムルヲ以足レリト爲ス而テ其之ヲ認メタルハ裁判言渡ニ揭示スル所ヲ以更ニ明晰ナリト爲ス

原裁判所ノ裁判言渡ニ干與シタル二名ノ裁判官ハ最初始審裁判所ノ身分ヲ以其事件豫密ニ干與シタル者ナルヲ以治罪法第二百五十七條ニ乖戾シタル者ナリト申立タル上告第五ノ理由ニ付キ之カ判決ヲ



為ス左ノ如シ  
 治罪法第二百五十七條ニ於テ重罪裁判所ニ送付スルノ言渡ニ干與シ  
 タル控訴裁判所ノ裁判官ハ同一ノ事件ニ付キ重罪裁判所裁判長ト為  
 リ又ハ其陪席判事ト為ルヲ得ス此規則ニ背キタルトキハ其裁判無効  
 ナル旨ヲ規定セリ  
 右ノ取除法ハ其規定シタル場合ノ外之ヲ他ニ及ホス可カラズ故ニ輕  
 罪事件ニ付キ豫審ヲ為シタル裁判官其公判ニ干與スル場合ニ之ヲ適  
 用ス可キ者ニ非サルナリ法律上右裁判官ハ總テ其擔當ノ事務ヲ行フ  
 可キ資格アリト為ス故ニ最初豫審ヲ為シタル事件ニ付キ輕罪裁判所  
 ノ裁判官ト為ルヲ得控訴裁判所ノ裁判官ト為リテハ其輕罪控訴局ニ  
 於テ嘗テ豫審ヲ為シタル事件ヲ受理審判スルヲ得可キ者ナリ  
 右ノ理由ニ依リ上告ヲ却下スル者ナリ

紀元一千八百七十四年七月二十四日 刑事局

裁判長	ラスクイ
專任判事	カルニエール
大代言人	ベダリード
代言人	ホスビエール
同	サバチユール
同	ポールレサーシユ
同	ベレロク

第三十九則

商業會社ノ社長其職務ヲ行フニ當リ自ラ犯罪ノ性質アル所為ヲ行



フタル場合ハ刑法上ノ責アリト爲ス第一判決

若シ商業會社ノ社長實際手廣ク支配ヲ爲スノ權ヲ有スル者ニシテ且該會社ノ舖店ニ輸送シ及ヒ陳列シタル所ノ者ト同質ナル物品ヲ數度自ラ購求シタル譯ナルトキハ該社ノ舖店ニ於テ差押エタル所ノ贋造物ヲ隱蔽シ及ヒ之ヲ賣物ニ供シタル者ナリトシテ之ニ對シ刑ヲ言渡シタルハ至當ナリト爲ス紀元一千八百四十四年七月五日法律第四十一條〔第一判決〕

被告人ニ於テ其器具ハ免許以前既ニ世ニ行ナハレタルヲ以本件ニ付キ該專賣免許ハ其効ナシト申立ル廉ヲ判決スルハ事實裁判官ノ權内ニアリト爲ス紀元一千八百四十四年七月五日法律第三十條〔第一判決〕  
原裁判所ニ於テ專賣免許ヲ受ケタル所ノ器具製造ノ順序ヲ精細ニ檢査シ其製造ノ目的及ヒ方法等ヲ熟知シタル上ニテ該器具ハ專賣

免許ヲ得可キ所ノ者ナリト爲シタル裁判言渡ハ專賣ノ法律ニ乖戾シタルノ廉ナク又紀元一千八百四十四年七月七日法律第一條及ヒ第二條ニ乖クノ廉ナシト爲ス〔第一及ヒ第二判決〕

原裁判所ニ於テ該專賣免許ノ有効ナル旨ヲ差示サンカ爲メ在來ノ方法ヲ新ニ調和シタル者ト云々明言シタルハ決テ差支ナキ者ナリ何者調和ノ語ハ該法律ニ記載スル所ノ適用ノ語ト同一義ナレハナリ  
被告人ニ於テ附屬器械ノ内一箇ヲ製造シタリシト認視シタル贋造器具ヲ其製造上ニ於テ發見シタル場合被告人ニ對シ贋造人トシテ刑ヲ言渡シタルハ當然ナリ其一箇ノ器械ヲ各別ニ視ルトキハ人民一般ニ製造スルヲ得ル者ナルトキト雖亦同シ紀元一千八百四十年七月五日法律第四十條〔第一判決〕



此差押エタル器具ハ贗造ヲ隱蔽スルノ目的ヲ以瑣細ナル變更ヲ爲シタリト雖專賣免許ヲ得タル器具ノ本質ヲ模擬シタル者ト爲シタル事實裁判官ノ判定ハ其全部ノ器具ヲ沒收スルノ理由ト爲スニ足ル者ニシテ且無上ノ權力ヲ有スル者ナリト爲ス紀元一千八百四十年四月二十九條及ヒ紀元一千八百四十年七月五日法律〔第二判決〕  
 假令贗造ノ罪ハ同一ナルモ其罪必スシモ相密著セス又互ニ通謀シテ犯シタルニ非サル各別ノ罪ヲ犯シタリト認視シタル者ニ對シ其裁判費用ヲ連帶シテ擔當ス可キ旨ヲ言渡スヲ得ス刑法第五條〔第一判決〕

被告人 ドリユシエ 外數名

第一判決

大審院ニ於テメナシユール會社ノ社長ドリユシエニ對シ贗造ノ罪ヲ

ト言渡シタルハ刑法上ノ責ニ關スル原則ニ乖戾シ及ヒ紀元一千八百四十四年七月五日法律第四十一條ヲ誤用シタル者ナリト申立ル所ノドリユシエ一身ニ止ル上告第一ノ理由ニ付キ之カ判決ヲ爲ス左ノ如シ

パレノボンヌヌーヴエルノ會社取締會議所ニ於テ規則ニ從ヒ爲シタル決議ニ依リドリユシエハパレノボンヌヌーヴエルニ於テメナシユールノ稱號ヲ以開業シタル所ノ商店ヲ支配スルニ付キ手廣キ權利ヲ有スル社長ノ職務ヲ委任シタリキ  
 右ノ位地タルドリユシエニ對シ義務ト監督ノ權トヲ負擔セシムル者ナレハ其自ラ事ヲ行フタル場合ニ於テハ刑法上ノ責アリト爲ス  
 原裁判所ノ裁判言渡ニ於テハ無上ノ權ヲ以事實上ドリユシエカメナシユールノ舖店ニ輸送シ及ヒ陳列シタル鐵製ノ臥床ヲ數度自ラ購求



シタル頗未ヲ認視セリ

三百二十六

メナシユールノ舗店ニ於テ差押エタル贋造ノ物品ヲ故ラニ隠蔽シ及  
ヒ陳列シタルノ罪アリトシテドリユシエニ對シ刑ヲ言渡シタル所ノ  
原裁判ハ前文掲載スル所ノ法律第四十一條ノ原則ニ乖戾スル者ニ非  
ス乃チ至當ナル適用ヲ爲セリ

上告人ニ於テモイセ、フナ井ユカ專賣免許ヲ得タル以前其物品既ニ世  
ニ行ナハレタル者ナリトノ申立ヲ原裁判所ニ於テ不當ニ排棄シタル  
ハ紀元一千八百四十四年七月五日法律第三十條第一項ニ乖戾シタル  
者ナリト申立ル所ノ上告第二ノ理由ニ付之カ判決ヲ爲ス左ノ如シ  
原裁判所ニ於テハモイセ、フナ井ユカ專賣免許ヲ得タル物品製造ノ手  
續ヲ悉ク審査シ其物品專賣免許ヲ得ルニ足ルノ價直アルヲ認視シタ  
ル上ニテ右專賣免許以前既ニ其物品世ニ行ナハレタル者ナリトノ申

立ヲ無上ノ權ヲ以且非難ス可カラサル理由ヲ以排棄シタリキ抑此判  
決タル大審院ノ監督ヲ受ク可キ者ニ非ラサルナリ

原裁判所ニ於テ專賣免許ヲ得タル物品製造ノ手續ヲ輕忽ニ檢査シ且  
在來ノ方法ヲ調和シタルヲ以直ニ該法律ニ所謂適用ト看做シタルハ  
專賣免許ノ法律ニ乖戾シ且紀元一千八百四十四年七月五日法律第一  
條及ヒ第二條ヲ誤用シタル者ナリト申立ル所ノ上告第三ノ理由ニ付  
キ之カ判決ヲ爲ス左ノ如シ

原裁判所ノ裁判言渡ニ於テハ專賣免許ヲ得タル物品製造ノ手續并ニ  
其資益アル旨ヲ明示シ且其物品ハ在來ノ方法ヲ調和シ久ク衆人ノ須  
用トナル所ニシテ且專賣免許ヲ得可キ者トシテ企望シタル所ヲ現ニ  
成就シタル者ナリト判決セリ而テ該裁判言渡書ニ於テ此證明ハ右製  
造ノ手續ヲ精密ニ檢査シ其目的の方法等カ了知シタル後始テ之カ爲シ

三百二十七



タルノ證據ヲ差示セリ  
原裁判所ノ裁判言渡書ニ掲ケタル調和ノ語ハ該法律ニ掲ケタル適用  
ノ語ト同一ノ意義ナリト爲ス  
原裁判所ノ裁判言渡ニ於テハ其判定ニ依リ專賣免許ノ法律ヲ正當ニ  
解釋シ且前文記載シタル所ノ第一條及ヒ第二條ヲ正當ニ適用シタル  
者ナリ

原裁判所ノ裁判言渡ニ於テデテシヨ一ヲ製造人トシテ罰シタル紀元  
一千八百四十四年七月五日法律第四十條及ヒ第四十九條ヲ犯シタリ  
ト申立ル所ノデテシヨ一ノ身ニ止ル上告第四ノ理由ニ付キ之カ判決  
ヲ爲ス左ノ如シ

原裁判所ノ裁判言渡ニ於テハデテシヨ一ノ製造所ニアリテ差押エタ  
ル所ノ臥床トモイセフヲ井エノ專賣免許ヲ得タル所ノ臥床ト同一ナ

ル旨ヲ證明セリ加之デテシヨ一ハ其臥床骨組ノ諸器具ヲ製造セリ仍  
テ贗造ノ罪ニ干與シタル者ナリト認視シタル旨ヲ證明セリ

斯ノ如ク判定ヲ爲シタル原裁判所ノ裁判ハ前文記載シタル各條ノ正  
當ニ適用シ且デテシヨ一ノ爲メ陳述シタル意見ニ付キ充分ナル判決  
ヲ與エタル者ナリ

原裁判所ノ裁判ニ於テ裁判費用ヲ犯者一同連帶シテ擔當ス可シト言  
渡シタルハ刑法第五十五條ヲ誤用シタル者ナリト申立ル所ノ上告第  
五ノ理由ニ付キ之カ判決ヲ爲ス左ノ如シ

刑法第五十五條ニ依ルニ同一ノ重罪若クハ輕罪ニ付キ刑ノ言渡ヲ受  
ケタル者ハ裁判費用ヲ連帶シテ擔當ス可キ者ナリトス  
各上告人ハ縱令同性質ノ犯罪ナリト雖互ニ相密着セス又互ニ通謀シ  
テ犯シタル者ニ非サル各別ノ罪ニ付キ公訴ヲ受ケ而テ刑ノ言渡ヲ受



ケタル者ナリ

原裁判所ノ裁判言渡ニ於テ各犯者ニ連帶シテ裁判費用ヲ負擔セシメタルハ刑法第五十五條ヲ誤用シ從テ之ニ乖戾シタル者ナリ  
右ノ理由ニ依リ第一第二第三及ヒ第四ノ理由ニ係ル上告ハ之ヲ却下シ第五ノ理由即チ裁判費用ヲ連帶ニ負擔セシメタル廉ニ付テハ紀元一千八百七十四年八月一日巴里控訴裁判所輕罪局ノ裁判言渡中此一部分ヲ破毀シ之ヲ取消ス者ナリ

紀元一千八百七十五年六月十二日 刑事局

裁判長 カルニエール

專任判事 ルーセル

大代言人 デシヤルダン

代言人 ボゼリヤン

同 ラルナツク

上告人 コルニリエー

第二判決

大審院ニ於テ原裁判所ノ裁判言渡上發明ノ本性質ヲ誤認シタルハ專賣免許ノ法律及ヒ紀元一千八百四十四年七月五日ノ法律第一條第二條ニ乖戾シ并ニ同法第四十條ヲ誤用シタルト申立ル所ノ上告第一ノ理由ニ付キ之ガ判決ヲ爲ス左ノ如シ

モイセ、フナ井エカ得タル所ノ專賣免狀即チ此訴訟ニ係ル所ノ專賣免狀ハ、ソノミエーリイリト稱スル殊ニ彈力アル蒲團附鐵製臥床ノ發明物ニ就キ附與シタル者ナリ  
專賣免狀下附ノ願書ニ添エタル明細書ニ明示スル所ニ就テ之ヲ觀ルニ該蒲團ニ特別ナル蝶番的ノ器具ヲ設ケ又臥床ニモ同ク蝶番的ノ器



具ヲ用フ而テ蒲團ノ蝶番ト臥床ノ蝶番ト相恰合スルヲ以其臥床ヲ疊ムヲ得ル者ナリ其疊ミタル臥床ノ中央ニ角形ノ空所アリテ臥具ハ悉ク之ヲ其中ニ納ム且此ノ如ク拵エタル蒲團ニハ通常ノ體裁ヲ具シ縱テニ尖形ノ蝶線鐵數箇ヲ入置キ其一膨一縮ヲ便ニスルヲ以他ノ蝶番的ノ器具ヲ用ヒサル蒲團ト同ク能ク其柔腕ヲ得

原裁判所ノ裁判言渡ニ於テハ此器具全躰既ニ世ニ知ラレタル方法ヲ新ニ適用シタルニ依リ專賣免許ヲ受ク可キ者ナリト言渡セリ而テ此判決ヲ爲スニ付テハ專賣免許ヲ受ケタル器具製造ノ方法ヲ詳細ニ取調ヘ其製造ノ方法目的等ヲ了知シタルノ證アリ之ヲ以原裁判所ノ裁判言渡ハ專賣法律及ヒ前文記載シタルノ法律即チ紀元一千八百四十四年七月五日法律ノ規則ニ乖戾シタルノ廉ナク正當ノ適用ヲ爲シタル者ナリ

原裁判所ノ裁判言渡ニ於テ別段ノ理由ナクシテ其發明品ヲラサル所ノ差押ヲ受ケタル臥床ノ沒收ヲ言渡シタルハ裁判ノ理由ヲ欠キ且紀元一千八百四十四年七月五日法律第四十九條ニ乖戾シタル者ナリト申立ル所ノ上告第二ノ理由ニ付キ之カ判決ヲ爲ス左ノ如シ  
原裁判所ノ裁判言渡ニ於テハ該蒲團ノミヲ以發明物ト認視セス此發明ハ專賣免許狀ニ差示シタル方法ヲ以組立且結附ケタル蒲團臥床ノ全躰ニ係ル旨ヲ特ニ明記セリ  
原裁判所ノ裁判言渡ニ於テ無上權ヲ以臥床ト共ニ疊ム可キ所ノ蒲團即チ尖形ノ蝶線鐵ヲ入レ蝶番的ノ器具ヲ附シタル蒲團ニシテ現ニ賣品ニ供シタル所ノ蒲團ハ上告人ノ家ニ於テ發見シタル旨ヲ證明セリ而テ專賣免許ヲ得タル所ノ物件ト差押ヲ受ケタル所ノ臥床トノ間ニ於テ一ノ差異ハモイセフヲ井エハ蒲團ヲ臥床ニ綴附ケ置キタレトモ



此上告人ニ於テ右蒲團ハ之ヲ載スルカ爲メ臥床ト全ク離シ置キタリ  
キ然レトモ此細目ノ變更ハ右器具ノ本質ヲ變更スル者ニ非ス唯贗造  
ヲ隱蔽センカ爲メ變更シタル者ナリト爲ス  
右ノ理由ハ差押ノ臥床並ニ蒲團ノ沒收ヲ正當ナリトスルニ足ル者ナ  
リ而テ此機關ハ其全骸ヲ組織スル者ナレハ全骸ノ沒收ヲ言渡サ、ル  
可カラズ而テ裁判所ニ於テハ各機關ニ付キ各別ニ理由ヲ付スルニ及  
ハサル者ナリ

右ノ理由ニ依リ原裁判所ノ裁判言渡ハ紀元一千八百十年四月二十日  
法律第七條及ヒ紀元一千八百四十四年七月五日法律第四十九條ニ乖  
戻シタル廉ナク至當ノ適用ヲ爲シタル者ナリ仍テ此上告ヲ却下ス  
紀元一千八百十五年十一月二十六日 刑事局

裁判長

カルニエール

專任判事

ヂユプレラサール

大代言人

デシヤルダン

代言人

コレー

同

ラルナツク



八ノ四行目其判事ハ某ノ誤  
十八ノ十行目頗ハ煩ノ誤  
三十二ノ一行目者ハ衍文  
七十二ノ六行目第一則ハ衍文  
七十三ノ三行目納塞ハ塞納ノ誤  
七十九ノ十行目第二則ハ衍文  
九十三ノ八行目大審院ノ下裁ノ字ヲ脱ス  
九十五ノ十二行目效方ハカノ誤  
九十七ノ六行目認視セハスノ誤  
百十六ノ七行目其抑留ノハヲノ誤  
百廿一ノ二行目貴重スノ下可ノ字ヲ脱ス  
百廿二ノ九行目慢ハ漫ノ誤  
百三十一ノ一行目者ハ旨ノ誤  
百三十七ノ二行目人ノ上二ノ字ヲ脱ス



百二十九ノ十二行目是ハ此ノ誤  
 百六十三ノ五行目ニハチノ誤  
 百七十二ノ十二行目該ハ議ノ誤  
 百七十六ノ四行目ルハレノ誤  
 二百十六ノ三行目マルビトルハセノ誤  
 二百三十四ノ十一行目殺人ノ下罪ノ字ヲ脱ス  
 二百四十七ノ十一行目セシハンノ誤  
 二百八十一ノ四行目第三則ハ衍文  
 二百五ノ十二行目第六則ハ衍文  
 二百九ノ五行目故ノ下ニノ字ヲ脱ス  
 三百十二ノ四行目第ノ下百ノ字ヲ脱ス  
 三百廿三ノ二行目七日ハ五日ノ誤  
 三百三十四ノ十一行目八百ノ下七ノ字ヲ脱ス

附録

損害要俵連 紀元一千八百六十九年判決録ノ抄譯  
帶ノ詞訟

紀元一千八百六十六年六月五日ノシヤン、シユル、セール地ヨリエベル  
ノ名 地ニ通行スル街道ニ於テ二個ノ馬車衝突ス其一ハレゼル之ヲ馭  
シ其一ハ パトリアルシユ之ヲ馭セリレゼルノ馬車中乗客シユフレン  
 夫婦地ニ顛倒シシユフレン婦ハ之カ爲メ大傷ヲ被レリ此所爲アルヲ以  
 レゼル及ヒパトリアルシユハドリコ懲治裁判所ニ引致セラレゼル  
 ハ馬車ヲ過度ニ疾驅セシメタルノ不注意ニ依リ故意ナクシテ折傷罪  
 チ犯シ又パトリアルシユハ規則ニ反シ道路ノ中央ヲ馳驅シ故意ナク  
 シテ折傷罪ヲ犯シタル者ト認定シレゼルニ禁錮三日罰金五十フラン  
 パトリアルシユニ罰金十フラン且兩人連帶ニテ訴訟入費ヲ拂フ可キ  
 旨ヲ言渡シタリキ



是ニ由テシユフノ婦ハレゼル及ヒパトリアルシユニ對シテ民事要償ノ訴ヲ起シ連帶ノ言渡アラフヲ論求セリ

紀元一千八百六十七年三月十二日ドリコ民事裁判所ノ裁判ハ被告兩名ヨリ原告ニ對シ各別ニ償金トシテ畢世年金百八十フラン其三分ノ二ハレゼルヨリ其三分ノ一ハパトリアルシユヨリ拂フ可キ旨ヲ言渡シタリ連帶ノ問題ニ付キ裁判上其理由トシテ掲載スル左ノ如シ

〔寡婦シユフノ婦ノ顛倒ト其顛倒ノ結果アル傷疵ハレゼル及ヒパトリアルシユノ身分ニ付キ各別ニ責ヲ歸ス可キ二個ノ所爲ヨリ生スレゼルハ大ナル不注意ノ罪アリト認定サレタリ又パトリアルシユハ規則違背ノ罪アリト認定サレタリ此二個ノ犯罪ハ同一個ノ結果ヲ生シタリト雖各別ニ離レタル者ナリ則チ同謀ノ所爲ニ非ス又害ヲ加フ可キノ同意思ナケレハ二犯者ノ間ニ連帶ヲ生ス可キ理由ナシ刑法第五十

五條ハ共犯罪ノ所爲ニ限り連帶ヲ許ス者ニシテ本件ニ適用ス可キニ非ス

シユフノ婦ノ控訴ニ依リ紀元一千八百六十七年十二月十四日巴里控訴裁判所ハ下文ニ述所ノ理由ニ依リ連帶ノ義務アル者ト審判セリ

寡婦シユフノ被ラシメタル傷疵ハパトリアルシユ及ヒレゼルカ先キニ處刑トナリタル一個ノ輕罪ヨリ生ス刑法第五十五條ニ據レハ一犯罪ヨリ生スル民事賠償ハ其犯者ニ連帶シテ拂フ可キ旨ノ言渡ヲ爲ス可キ者ト爲ス

該條ノ適用ハ刑事裁判所ニ民事ノ訴訟ヲ爲シタル場合ノミニ限ルニ非ス民法ノ規則ハ訴訟ヲ受ケタル法廳ノ性質トハ關係ナキ者ナリ

其他控訴人ハレゼル及ヒパトリアルシユニ各別ニ責ヲ歸ス可キ二個ノ元素併合シテ原因トナリ變災ヲ生シタル一個ノ犯罪ノ被告人ナリ



ト爲ス

三百四十

故ニ賠償ハ連帶ス可キ旨ヲ言渡ス云々  
パトリアルシユノ上告シタル所ノ主意ヲ觀ルニシユフレニ加エタル  
損害ハ一個ノ犯罪ヨリ生シタルニ非ス則チ所爲及ヒ意思ノ通謀ナク  
シテ犯シ全ク相ヒ離レタル二個ノ過失即チ一ハ馬車疾驅ノ大不注意  
ト一ハ單ニ規則ヲ違背シタルヨリ生シタルノ損害ナリ然ルヲ控訴裁  
判所ノ判決ニテ賠償連帶ノ義務ヲ言渡タルハ刑法第五十五條ニ乖ク  
者ナリト爲ス

判決

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ  
刑法第五十五條ニ據レハ同重罪又ハ同輕罪ノ言渡ヲ受タル者ハ總テ  
罰金返還賠償訴訟費用ハ連帶ニテ其義務ヲ負フ可シト

ドリコ懲治裁判所ノ確定ノ効力アル裁判言渡ヲ觀ルニレゼル及ヒパ  
トリアルシユハ紀元一千八百六十六年六月五日ノシヤン、シユル、セー  
ヌヨリエベルノンニ通行スル街道ニ於テ二個ノ馬車其一ハ過度ニ疾  
驅シタルニ依リ他ノ一ハ紀元一千八百五十二年八月一日法律ノ第九  
條ニ乖キ道路ノ中央ヲ馳セタルニ依リ互ニ衝突顛倒シ寡婦シユフレ  
ニ對シ故意ナク傷疵ヲ被セタル者ナリト言渡シタリ右ノ所爲ハ二個  
相離レタル原因ノ密合シタル者ヨリ成立タル一犯罪ニシテ二個各別  
ノ犯罪ニ非ス此故ニレゼル及ヒパトリアルシユハ民事ノ訴訟ニ付キ  
損害ノ賠償ヲ連帶ス可キ者ナリト判決シタルナリ兩人間ニハ其所爲  
及ヒ意思ノ通謀ナシト抗言スルモ懲治裁判所ノ判決スル所假令雙方  
相同シカラスト雖兩人共ニ犯罪ニ加入シ而テ此犯罪ハ意思ヲ問ハサ  
ル者ナルヲ以此抗言ヲ理ナキ者ト爲ス

三百四十一



故ニパトリアルシユニレゼルト共ニ控訴裁判所判決ノ如ク連帶シテ  
償金拂方ヲ爲ス可キ旨ヲ言渡ス者ナリ  
巴里控訴裁判所ハ刑法第五十  
五條ニ乖クニ非ス乃チ至當ノ適用ヲ爲シタル者ナリ故ニ上告ヲ却下  
ス

紀元一千八百六十八年十二月一日 願訴局

裁判長 ドンシヤン  
專任判事 キーコマール  
大發言人 フアブル  
發言人 アルベルシゴ

佛國民刑判決錄 刑事部畢

明治十九年七月十五日版權免許  
全二十年四月 出版

定價一月拾錢

抄譯者 東京府平民 堀田正忠

大坂西區江戸堀上通  
二丁目五十六番地

出版者 滋賀縣士族 小林義則

東京日本橋區本町  
四丁目十六番地

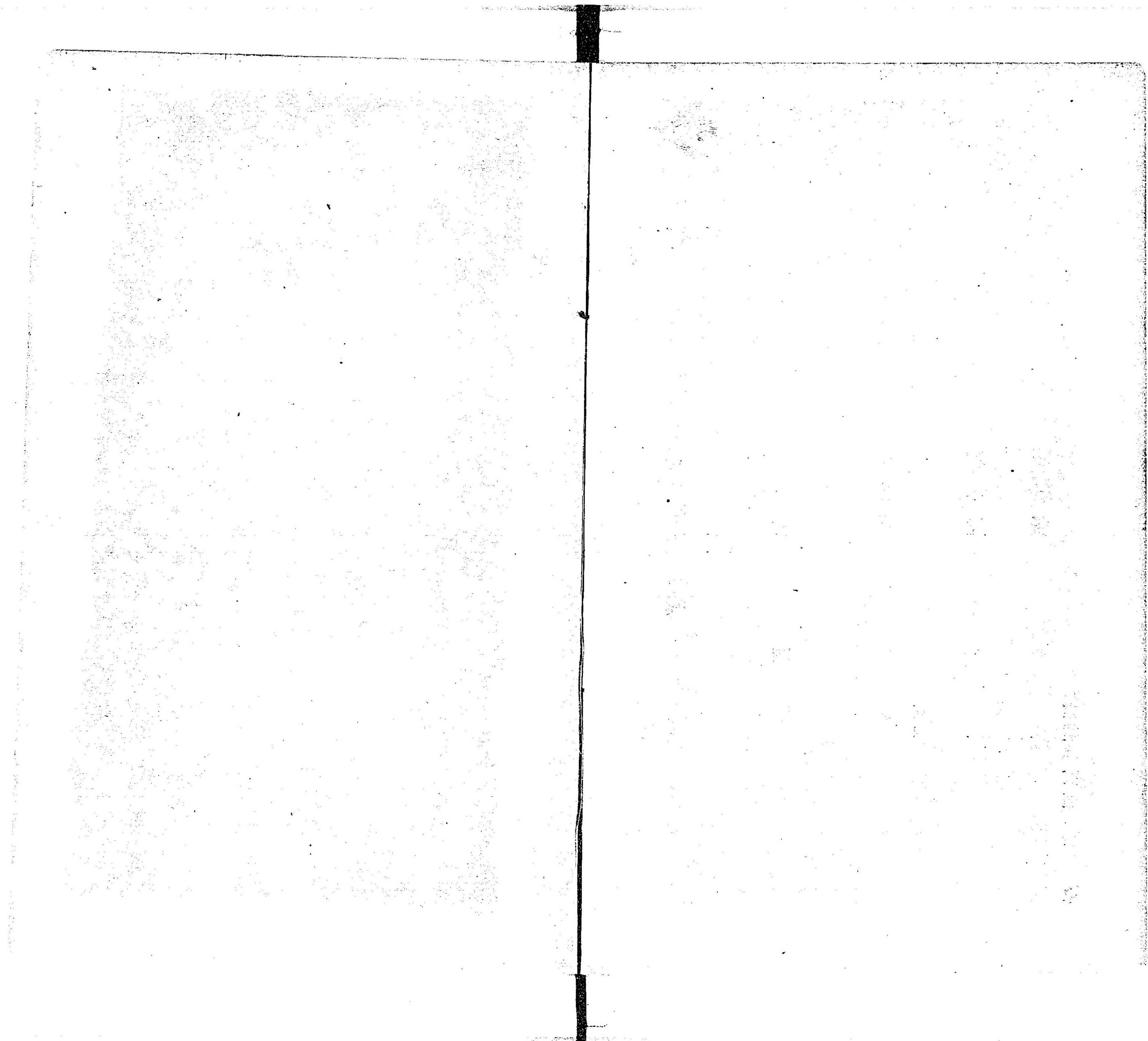
發兌 文學社

右同所

印刷所 秀英舍 京橋區西紺屋町



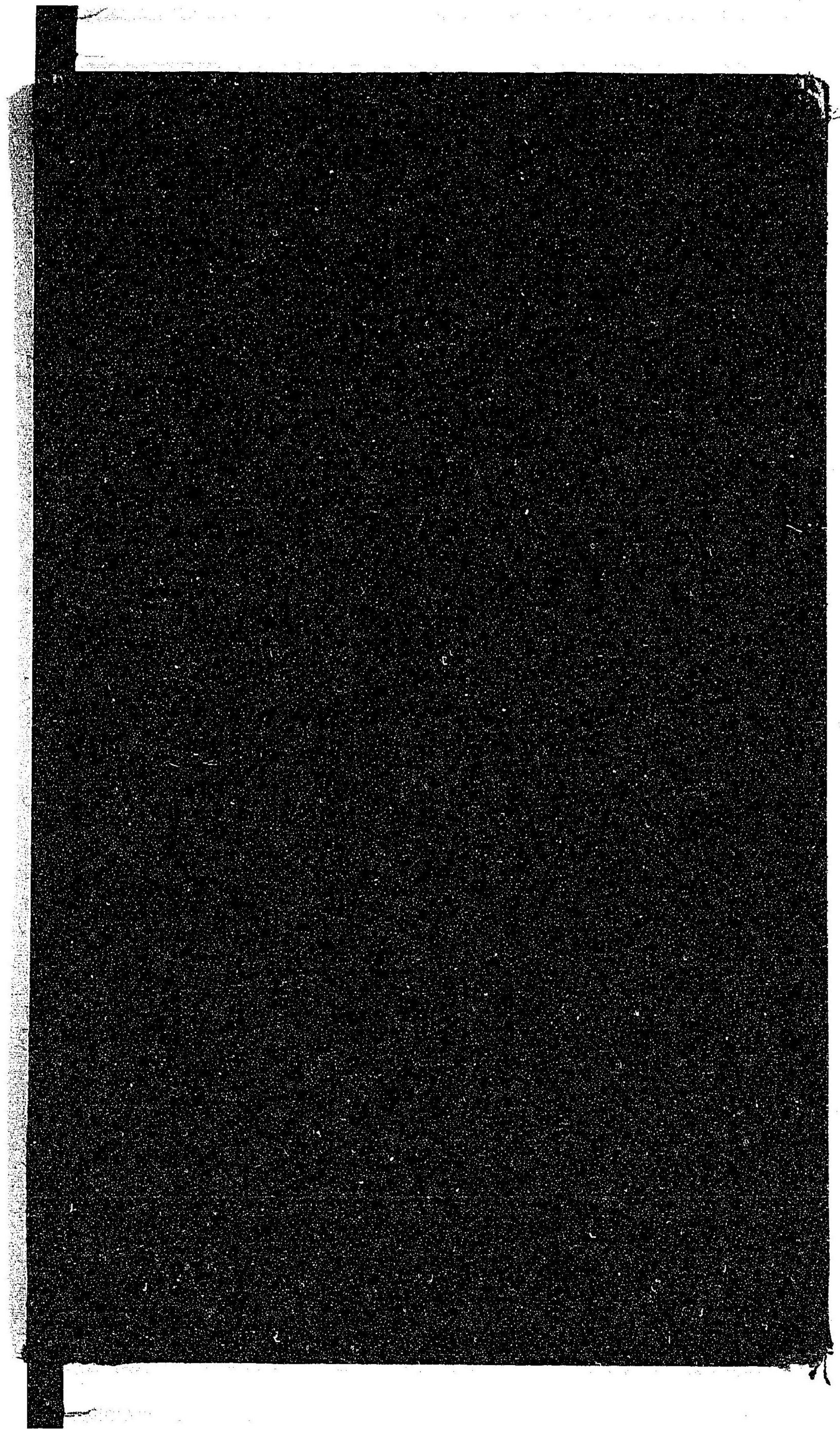






33  
246







33

246

東泉圖書館				
類	屬	函	架	號